

あ ま さん にゅう どう
市原市海土遺跡群 (三入道地区)

2 0 0 8

有 限 会 社 ま る ぶ ん
市 原 市 教 育 委 員 会

序 文

市原市は、南北に貫流する養老川がもたらした肥沃な平野と、山間部の緑豊かな自然環境をもち、市内各地には先史以来の多くの遺跡が存在し、人びとの足跡を今日に伝えています。

今回の発掘調査は、店舗の建設に伴って実施されました。建設計画の段階から、関係諸機関が慎重に協議を重ねてまいりましたが、やむを得ず遺跡の一部について記録保存の措置をとることとなりました。

調査の結果、小範囲の調査にもかかわらず、古墳や竪穴住居跡など多くの遺構が検出され、また、市内において類例の少ない中世の和鏡が出土するなど、養老川の段丘面における遺跡の貴重な調査成果を得ることができました。本調査の成果が地域研究の一助となれば幸いです。

最後に、調査に当たり千葉県教育庁文化財課、有限会社まるぶん、並びに関係各位の方々に多大なご協力をいただき、厚く御礼申し上げます。

平成20年3月

市原市教育委員会
教育長 山崎正夫

例 言

- 1 本報告書は、千葉縣市原市福増字三入道757-1・758-1の一部に所在する海土遺跡群（三入道地区）の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査は、店舗建設にともない、有限会社まるぶんの委託を受け、千葉県教育委員会の指導のもと、市原市埋蔵文化財調査センターが実施した。
- 3 発掘調査は、事業範囲1,303㎡のうち、457㎡を対象として実施した本調査である。これは、平成18年度に市原市の国庫補助事業として埋蔵文化財調査センターが実施した130.3㎡の確認調査の結果を受けたものである。
- 4 発掘調査、整理作業は、以下のとおりに行った。

発掘調査	平成18年7月24日～平成18年8月28日	担当	近藤 敏
整理作業	平成19年10月22日～平成20年3月14日	担当	小川浩一
- 5 本書の編集は小川が行った。
- 6 本書で使用した図面の方位は、すべて座標北である。
- 7 本遺跡の市原市埋蔵文化財調査センターの調査コードはセ409である。
- 8 本書に収録した出土遺物および記録類は、市原市教育委員会ふるさと文化課埋蔵文化財調査センターで収蔵、保管している。

本文目次

序文	1	1 竪穴住居跡	17
例言		2 古墳	18
第1章 はじめに	1	第3節 中世	19
第2章 検出された遺構と遺物	4	1 土坑跡	19
第1節 弥生時代	4	第4節 一括出土遺物	20
1 竪穴住居跡	4	第3章 まとめ	20
第2節 古墳時代	17	報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 海土遺跡群（三入道地区）位置図	3	第8図 断面図（3）	10
第2図 海土遺跡群（三入道地区）地形図	3	第9図 出土遺物（1）	11
第3図 全体図	5	第10図 出土遺物（2）	12
第4図 遺構平面図（1）	6	第11図 出土遺物（3）	13
第5図 遺構平面図（2）	7	第12図 出土遺物（4）	14
第6図 断面図（1）	8	第13図 出土遺物（5）	15
第7図 断面図（2）	9	第14図 出土遺物（6）	16

表目次

第1表 出土遺物観察表（1）	21	第3表 出土遺物観察表（3）	23
第2表 出土遺物観察表（2）	22	第4表 出土遺物観察表（4）	24

写真図版目次

表紙 遺跡の位置と周辺地形（空中写真）	図版7 1・2・4・5・6・7号跡
図版1 1号跡・2号跡	出土遺物写真
図版2 4号跡・5号跡・9号跡・6号跡	図版8 7・8・9号跡出土遺物写真
図版3 6号跡・調査風景・7号跡	図版9 1・2・3・4号跡出土遺物写真
図版4 7号跡	図版10 4・5・6・7号跡出土遺物写真
図版5 7号跡・8号跡	図版11 7・8・9号跡出土遺物写真
図版6 8号跡・遺構遠景・10号跡	図版12 10号跡及び一括出土遺物写真

第1章 はじめに

1 遺跡の概要

(1) 位置と環境

当遺跡は、市原市を南北に縦貫する養老川の中下流右岸を西約1.3kmに望む、標高24m前後の微高地である段丘面上に位置する。この段丘面は、養老川水系によって樹枝状に開析されており、遺跡は西側に突き出た段丘面の奥部に位置する。南側200mには小支谷が入り込んでおり、谷との比高差は9m程である。この谷と養老川西岸との間には沖積平野が形成されている。平野との比高差は13m程である。また、東方には標高52～54mの台地が迫っており、本遺跡は麓の段丘面に位置するとともに、養老川右岸に展開する沖積地より一段高い位置にあり、南総段丘Ⅰ～Ⅱ面に相当すると考えられる。

(2) 遺跡の概要

海土遺跡群（三入道地区）は、平成18年度に国庫補助事業として確認調査が行われたのち、その結果を受けて、一部本調査が行われた。

調査の成果をみると、弥生時代後期竪穴住居跡3軒、古墳時代前期竪穴住居跡3軒と、合計で6軒の住居跡を検出している。

また、古墳時代前期には古墳が2基存在しており、周溝内から多くの遺物が出土している。出土遺物の中には畿内地方や東海地方の影響を受けたと思われる遺物も存在しており、当古墳の被葬者との関係を考える上で興味深い資料と言える。

一方、中世期においては和鏡を出土した土坑が存在しており、墓坑と考えられる。土坑内と考えられる堆積土中から14世紀と考えられる陶器片が出土しており、場所は蟻木城として周知されている北東部周縁に該当することから、その関係が注目される。

(3) 周辺の遺跡

養老川中下流域の段丘面は調査事例があまり多くないものの、周辺には縄文時代から中世にわたる遺跡が多数存在している。

本遺跡東方に迫る標高52～54mの台地上には縄文時代中期の馬蹄形貝塚である山倉天王貝塚や、山倉堂谷貝塚が存在している。弥生時代中期後半には、南方約2.5kmにある養老川右岸沿いの段丘下位面に宮ノ台式期の方形周溝墓群が展開する山田大宮遺跡がある。また南方約1.0kmの養老川右岸を望む段丘面に、弥生時代中期宮ノ台式期～古墳時代後期にかけての竪穴住居跡を継続的に検出した叶台遺跡がある。

古墳では、本遺跡がある西側に突き出た段丘面の南西端部に前方後円墳2基を含む新殿古墳群が存在した。北東方向約600mの台地上には山倉堂谷古墳群や猿子谷古墳群が展開し、南東方向約1.6kmの台地麓にある段丘高位面には武士古墳群が存在する。

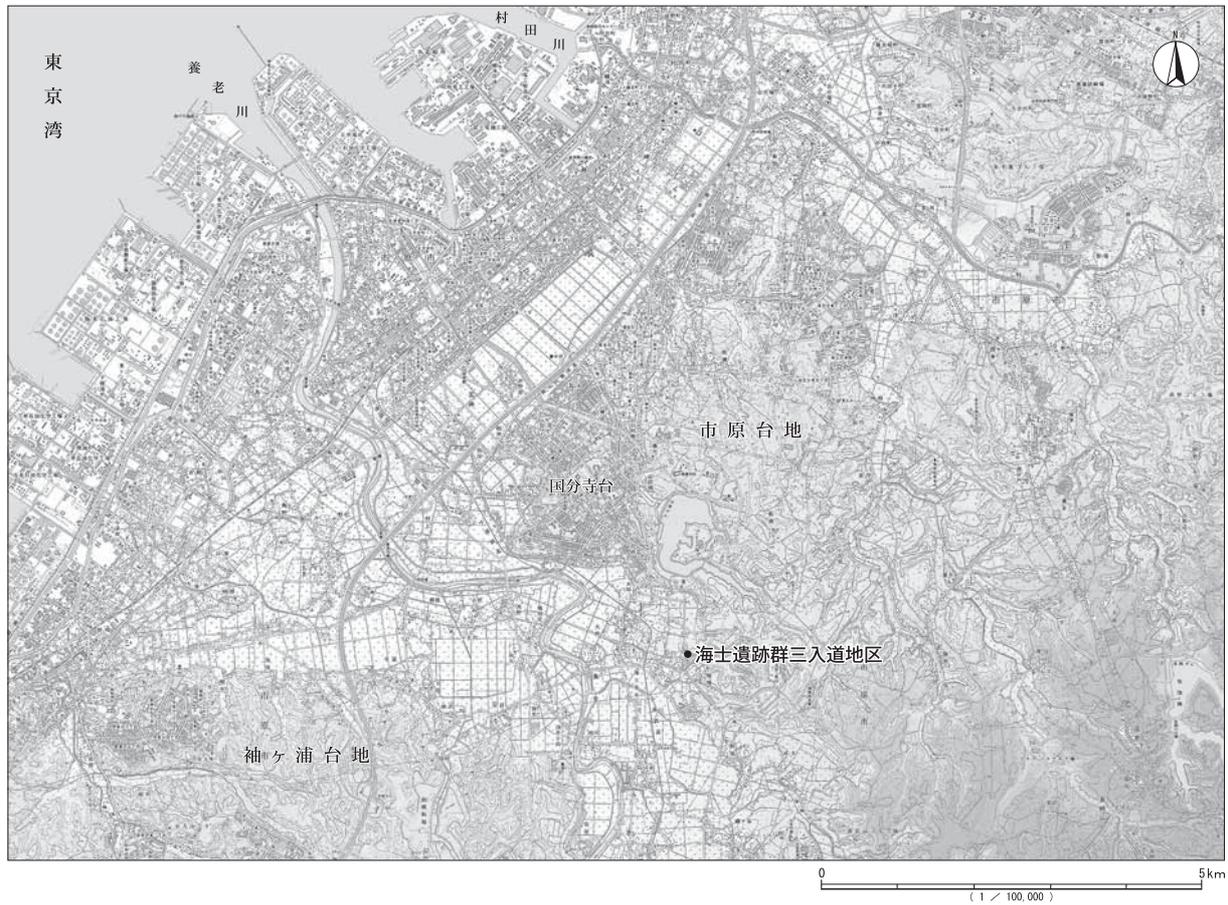
一方、中世に目を転じると、遺跡がある西側に突き出た段丘面全体が、戦国期を中心とした後

北条氏系の城とされる蟻木城として周知されており、本遺跡はその東側外縁部周辺に存在する。また南方約1.2kmの段丘面には、15世紀を中心とした遺構群や、鑄造関連の遺物が大量に出土した小鳥向遺跡などの存在が知られている。

2 調査の経緯

(1) 調査に至る経緯

今回の調査範囲は、国庫補助事業として実施された確認調査の結果を受けて決定された。確認調査の結果、遺構を検出した範囲のうち施工上切り土せざるを得ず、遺構の保護ができないと判断された西側農免道路寄りの457m²が本調査の対象となった。



第1図 海土遺跡群(三入道地区)位置図



第2図 海土遺跡群(三入道地区)地形図

第2章 検出された遺構と遺物

第1節 弥生時代

1. 竪穴住居跡

概要

調査によって検出された弥生時代の竪穴住居跡は、3軒ある。いずれも後期の竪穴住居であるが、遺構の深さは50cm程度であり、そのうちの1軒は床面と考えられる硬化面が一部残存しているのみであった。

1号跡

位置 調査区の南側に位置し、7号跡と近接している。

形態 東側は調査区外となっているが、径6m前後のやや角の張った楕円形を呈する。

構造 床面は、比較的堅牢であり支柱穴の周囲を含む広い範囲が硬化していた。壁溝は検出されなかった。壁高は、50cm程度を測る。

中央西寄りに炉が存在し、径40～60cm、深さ10cm程度の掘り込みがあり、周囲にかけて地山が焼けていた。

周囲には、掘り込みのしっかりしたピットが存在しており、支柱穴となる4カ所のピットP1～4のうち、P2及びP4は、P2に柱抜き取り痕跡が見られることからP4を新たに支柱穴とした可能性がある。径50～70cm、深さ60～100cm程度を測る。出土遺物は、炉付近の床面から小型壺1、東側の床面付近から壺胴部8が出土している。また、一括出土遺物として杯と脚の接合部に隆帯を持つ高杯9などが出土している。

2号跡

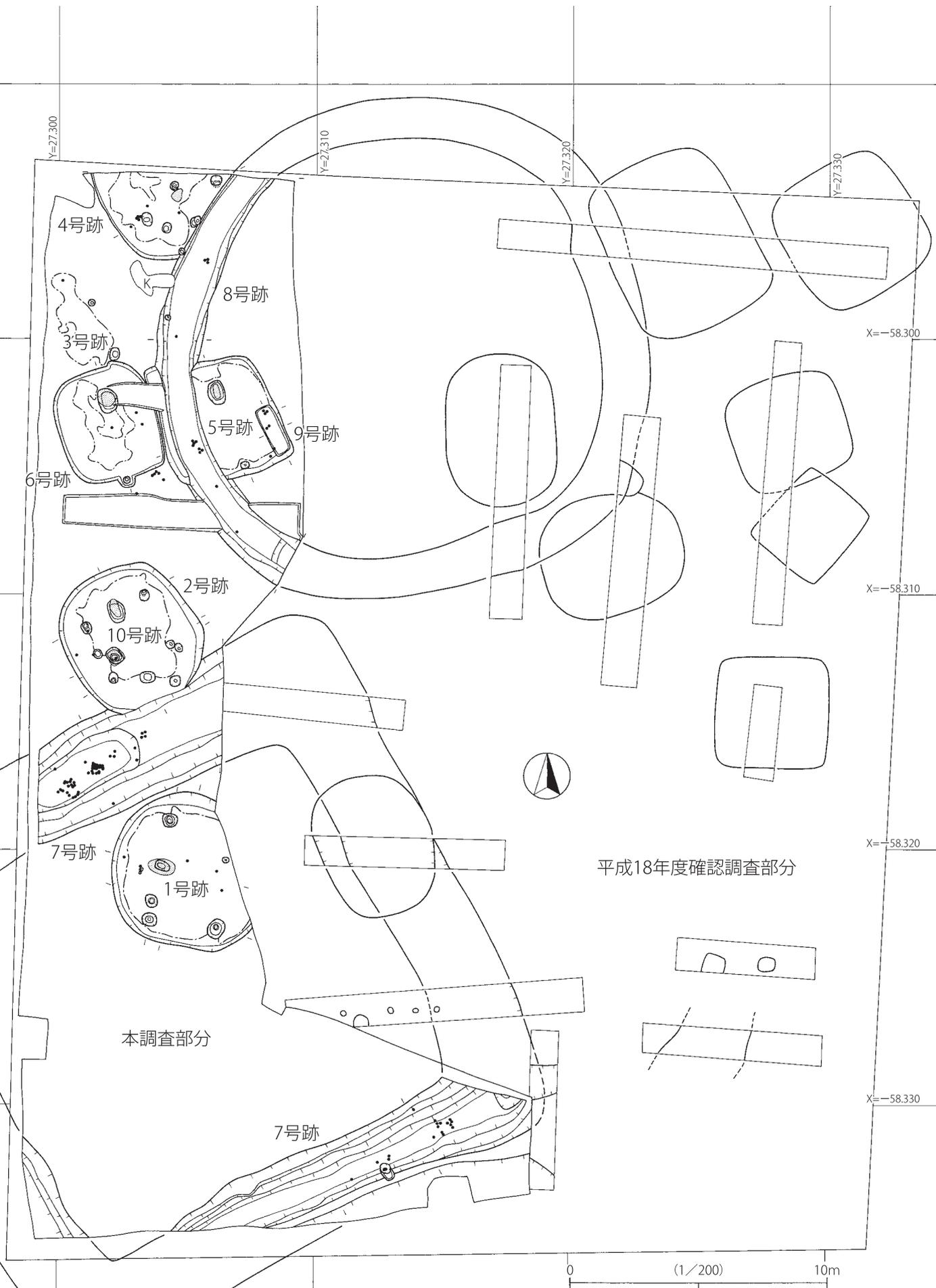
位置 調査区の中央西寄りに位置し、7号跡及び10号跡と重複している。

形態 南側において、7号跡及び10号跡に切られている。径5～6m前後のやや角の張った楕円形を呈する。

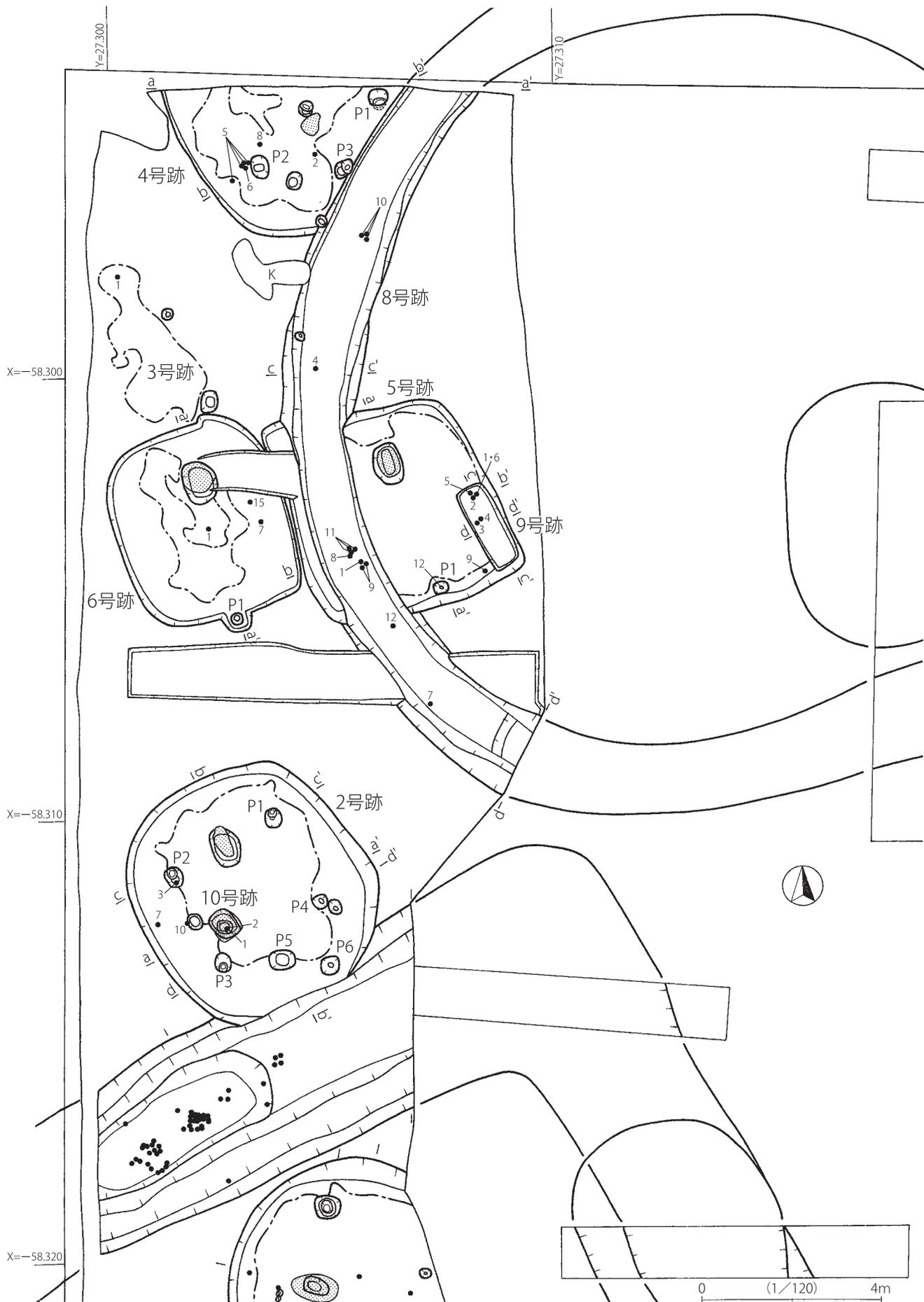
構造 床面は、比較的堅牢であり支柱穴の内側を中心とする範囲が硬化していた。壁溝は検出されなかった。壁高は、50cm程度を測る。

中央北寄りに炉が存在し、径50～90cm、深さ10～20cm程度の掘り込みがあり、周囲にかけて地山が焼けていた。

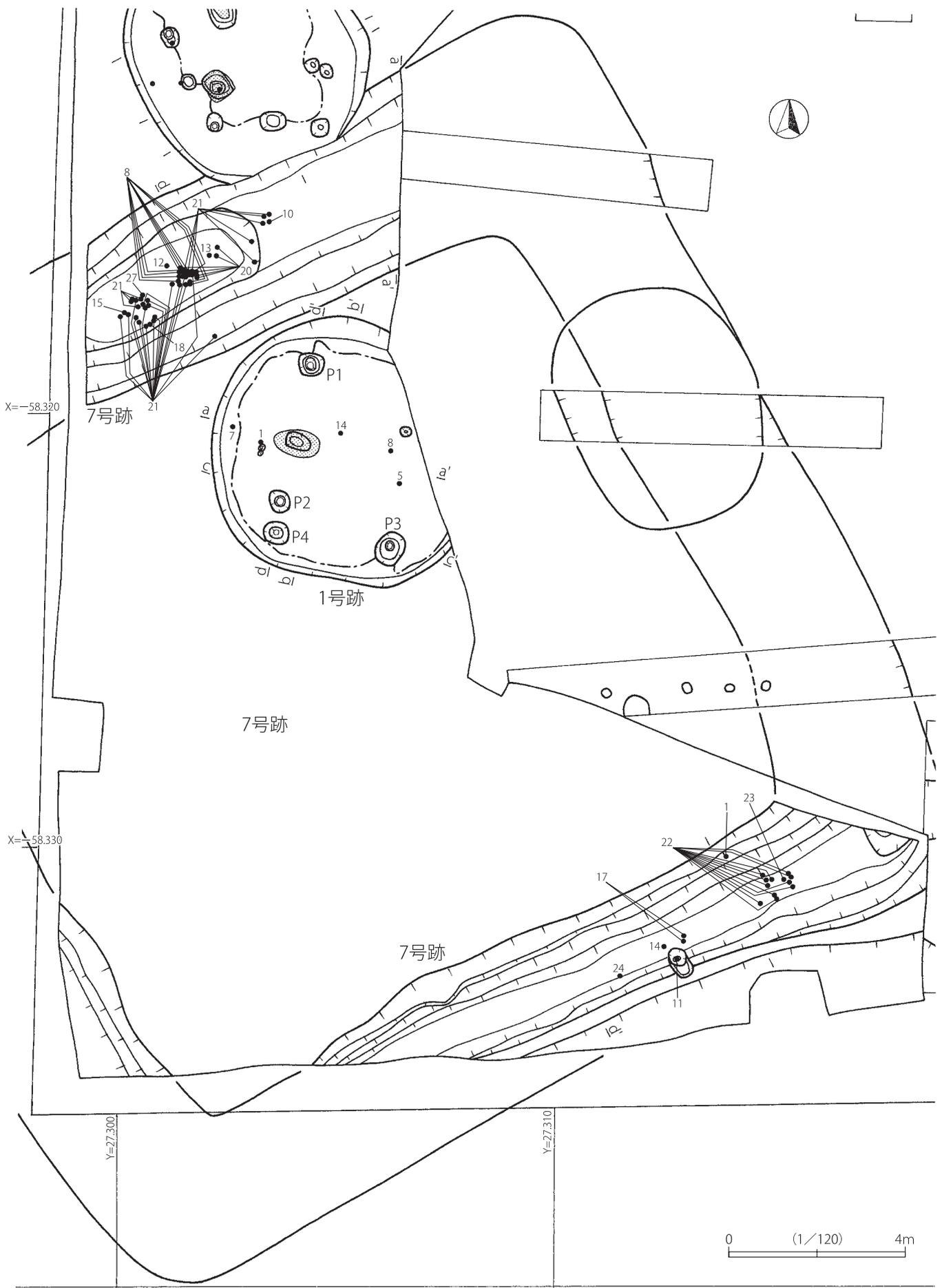
周囲には、掘り込みのしっかりしたピットが存在しており、支柱穴と考えられる4カ所のピットP1～4は、径30～50cm、深さ50～60cmを測る。P5は出入り口に伴うピット、P6は貯蔵穴であろうか。出土遺物は、P2内より壺口縁部3、床面付近より鉢口縁部10などが出土している。他には一括出土遺物として土師器14などが出土しているが混入であろう。



第3図 全体図



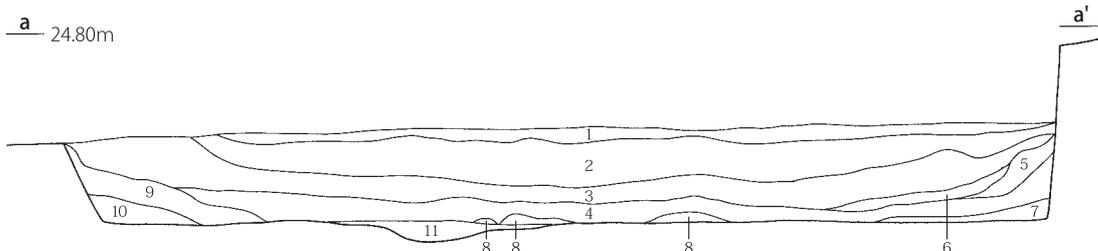
第4図 遺構平面図(1)



第5図 遺構平面図(2)

1号跡

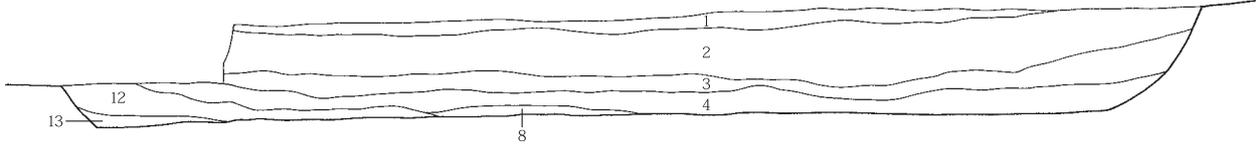
a— 24.80m



b— 24.80m

a-a' b-b'

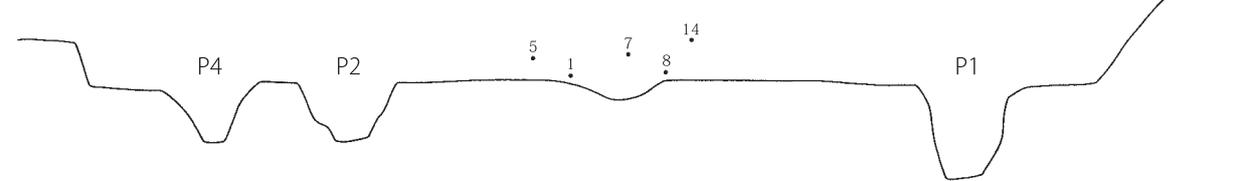
- | | | |
|---------------------------|----------------------|----------------------|
| 1 暗灰褐色土(黄褐色ローム粒混入) | 4 暗灰褐色土(ロームブロック少量混入) | 9 黒色土(ローム粒混入) |
| 2 黒褐色土(黄褐色ローム粒・橙色スコリア粒混入) | 5 黒褐色土(ロームブロック混入) | 10 黒褐色土(ロームブロック混入) |
| 3 暗黄褐色土(ロームブロック少量混入) | 6 黒褐色土(ローム粒混入) | 11 灰褐色土(焼土粒混入) |
| | 7 黒褐色土(ロームブロック混入) | 12 暗褐色土(ロームブロック少量混入) |
| | 8 黒褐色土(ロームブロック混入) | 13 灰褐色土(ロームブロック混入) |



c— 24.30m

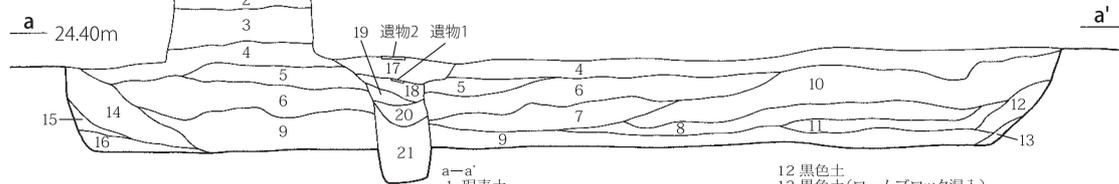


d— 24.30m

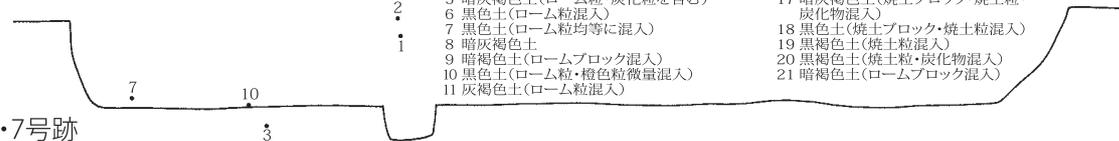


2・10号跡

a— 24.40m



a— 24.40m



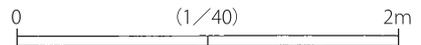
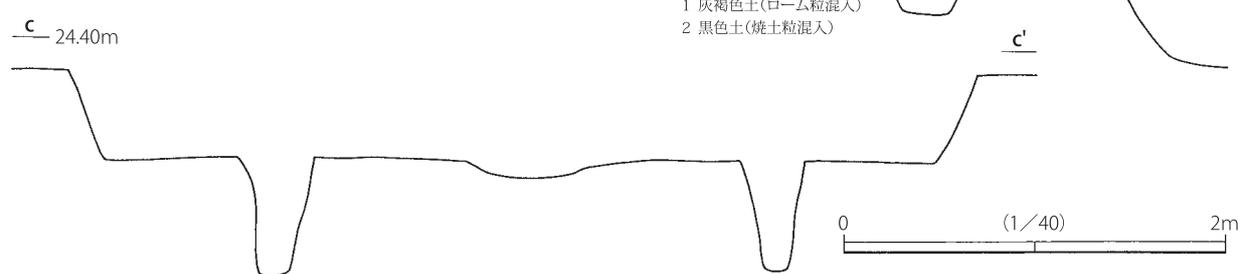
2・7号跡

b— 24.40m



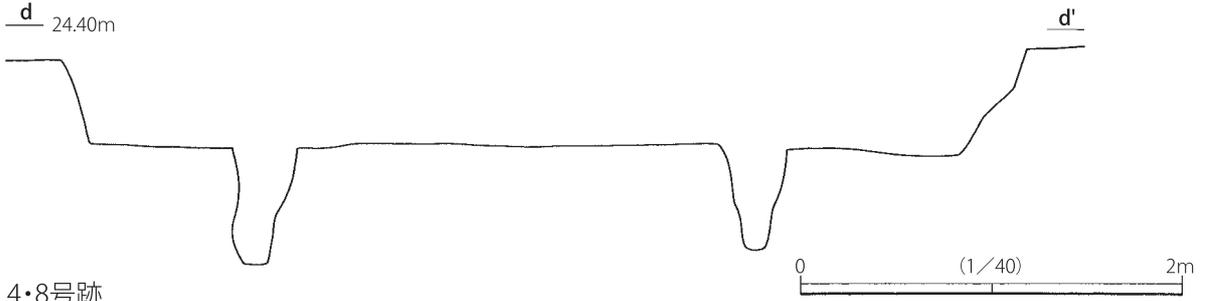
2号跡

c— 24.40m

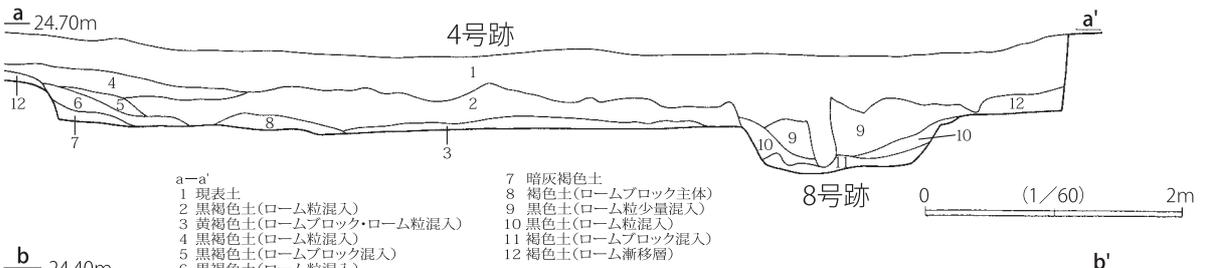


第6図 断面図(1)

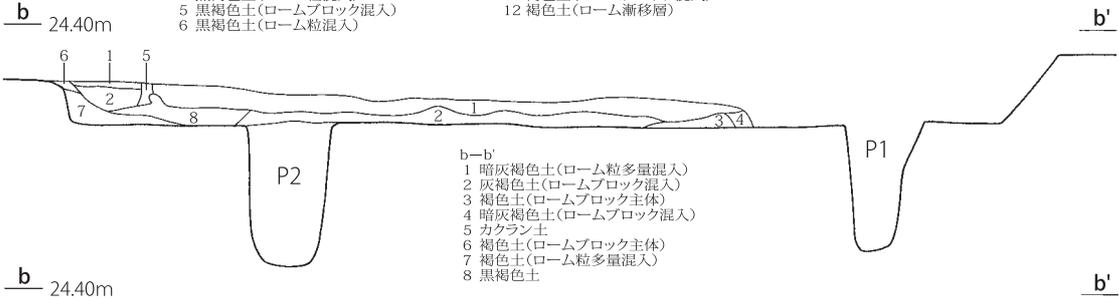
2号跡



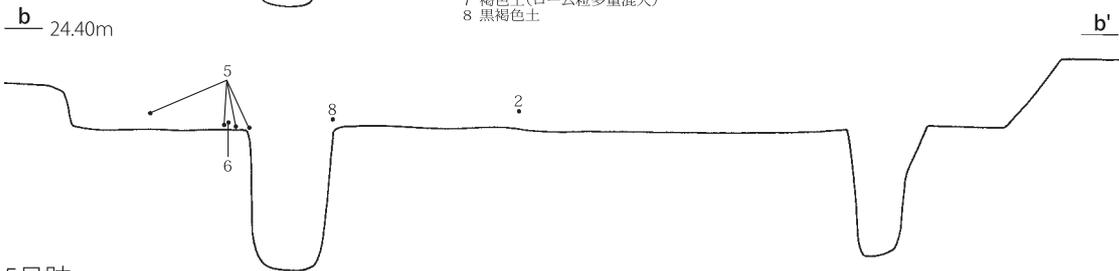
4・8号跡



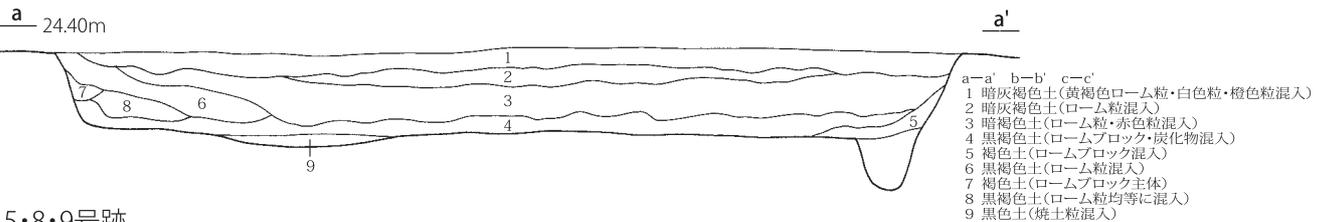
- a-a'
- 1 現表土
 - 2 黒褐色土(ローム粒混入)
 - 3 黄褐色土(ロームブロック・ローム粒混入)
 - 4 黒褐色土(ローム粒混入)
 - 5 黒褐色土(ロームブロック混入)
 - 6 黒褐色土(ローム粒混入)
 - 7 暗灰褐色土
 - 8 褐色土(ロームブロック主体)
 - 9 黒色土(ローム粒少量混入)
 - 10 黒色土(ローム粒混入)
 - 11 褐色土(ロームブロック混入)
 - 12 褐色土(ローム漸移層)



- b-b'
- 1 暗灰褐色土(ローム粒多量混入)
 - 2 灰褐色土(ロームブロック混入)
 - 3 褐色土(ロームブロック主体)
 - 4 暗灰褐色土(ロームブロック混入)
 - 5 カクラン土
 - 6 褐色土(ロームブロック主体)
 - 7 褐色土(ローム粒多量混入)
 - 8 黒褐色土

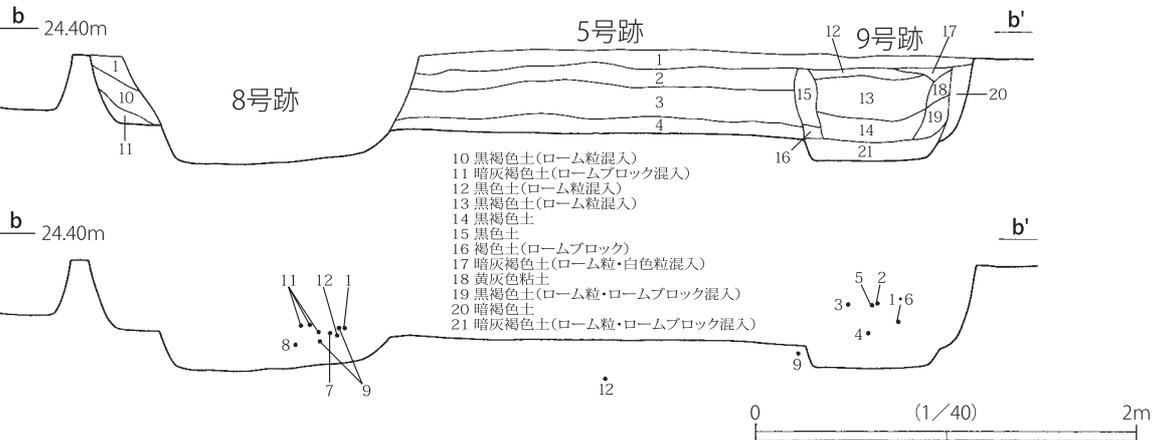


5号跡



- a-a' b-b' c-c'
- 1 暗灰褐色土(黄褐色ローム粒・白色粒・橙色粒混入)
 - 2 暗灰褐色土(ローム粒混入)
 - 3 暗褐色土(ローム粒・赤色粒混入)
 - 4 黒褐色土(ロームブロック・炭化物混入)
 - 5 褐色土(ロームブロック混入)
 - 6 黒褐色土(ローム粒混入)
 - 7 褐色土(ロームブロック主体)
 - 8 黒褐色土(ローム粒均等に混入)
 - 9 黒色土(焼土粒混入)

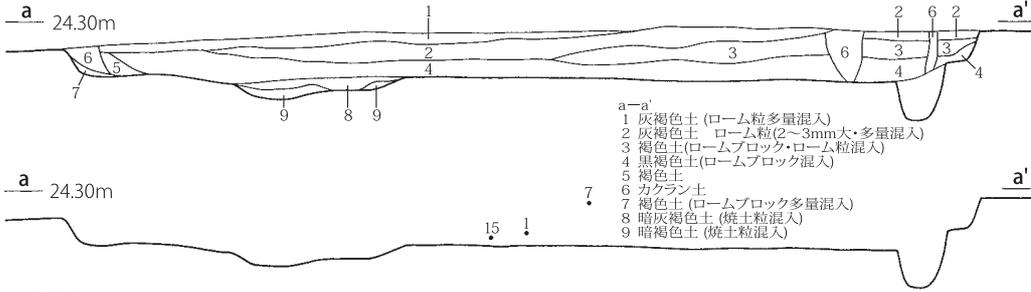
5・8・9号跡



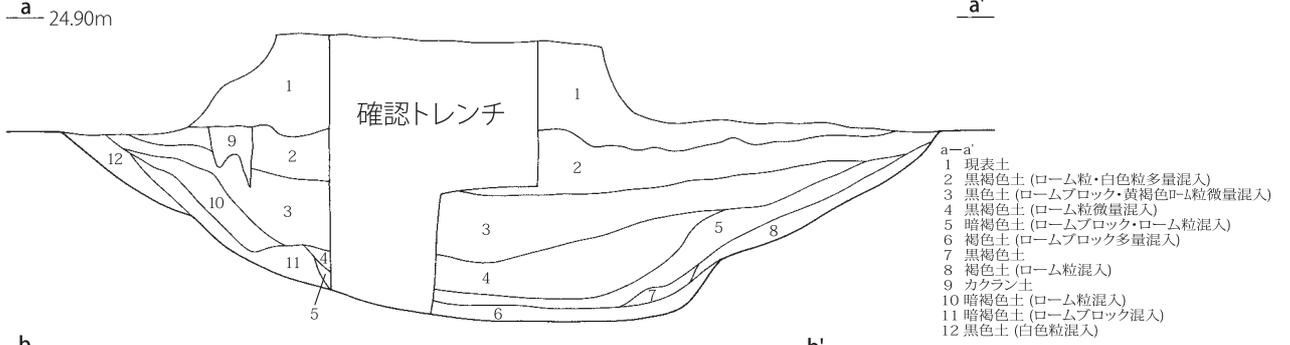
- 10 黒褐色土(ローム粒混入)
- 11 暗灰褐色土(ロームブロック混入)
- 12 黒色土(ローム粒混入)
- 13 黒褐色土(ローム粒混入)
- 14 黒褐色土
- 15 黒色土
- 16 褐色土(ロームブロック)
- 17 暗灰褐色土(ローム粒・白色粒混入)
- 18 黄灰色粘土
- 19 黒褐色土(ローム粒・ロームブロック混入)
- 20 暗褐色土
- 21 暗灰褐色土(ローム粒・ロームブロック混入)

第7図 断面図(2)

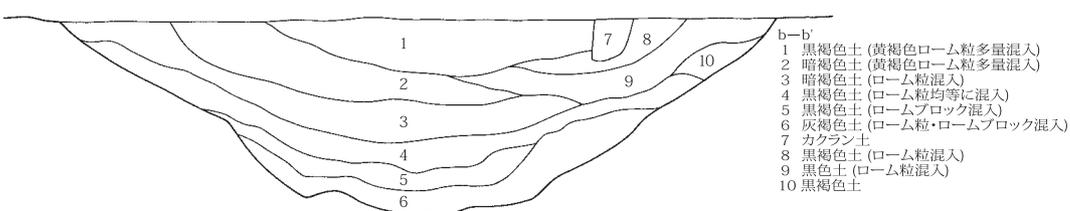
6号跡



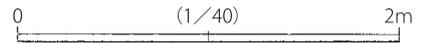
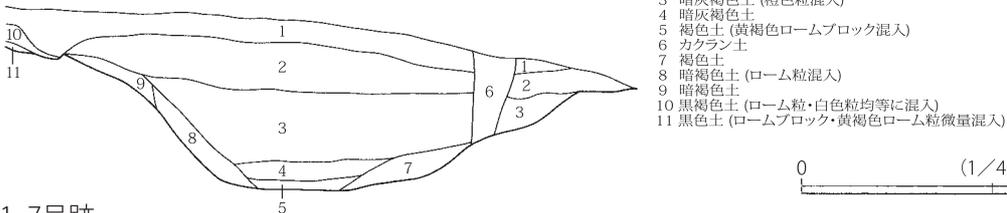
7号跡



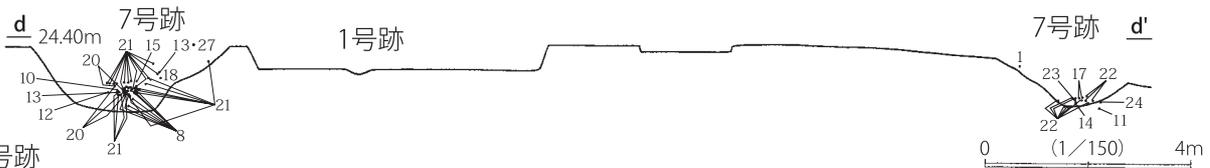
b 24.30m



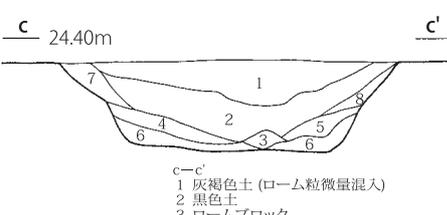
c 24.20m



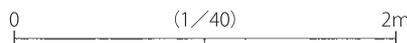
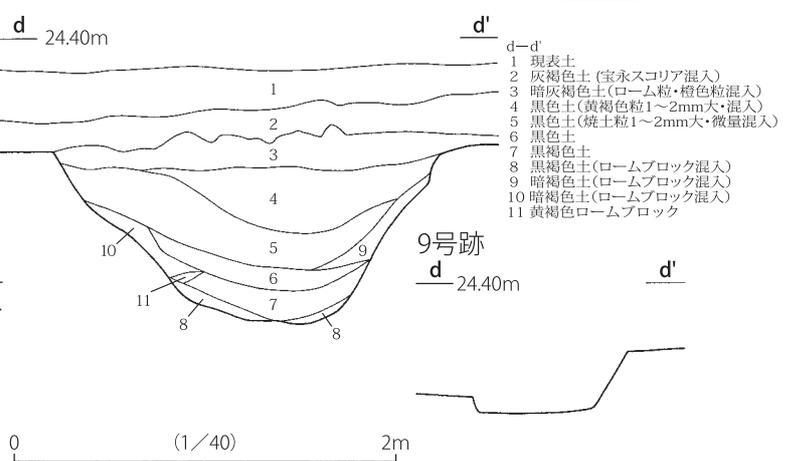
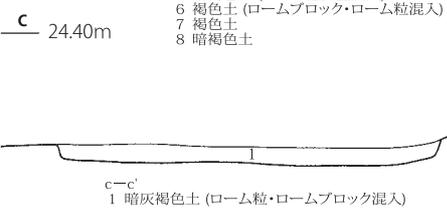
1・7号跡



8号跡

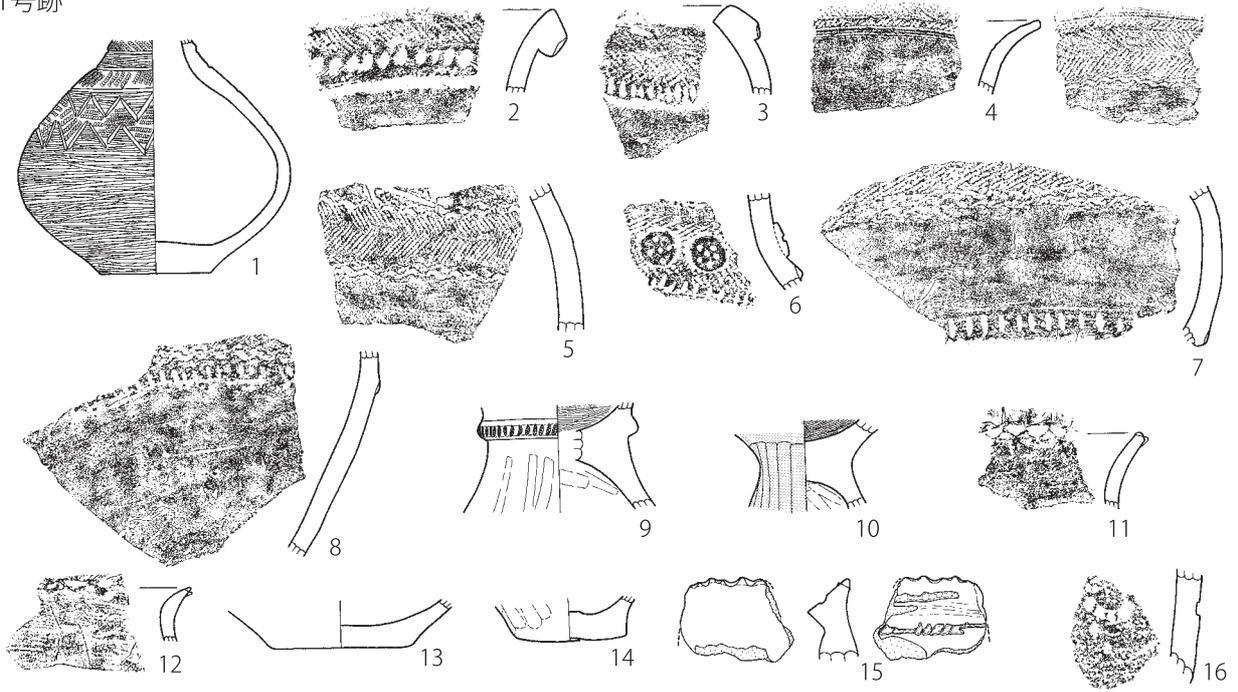


9号跡

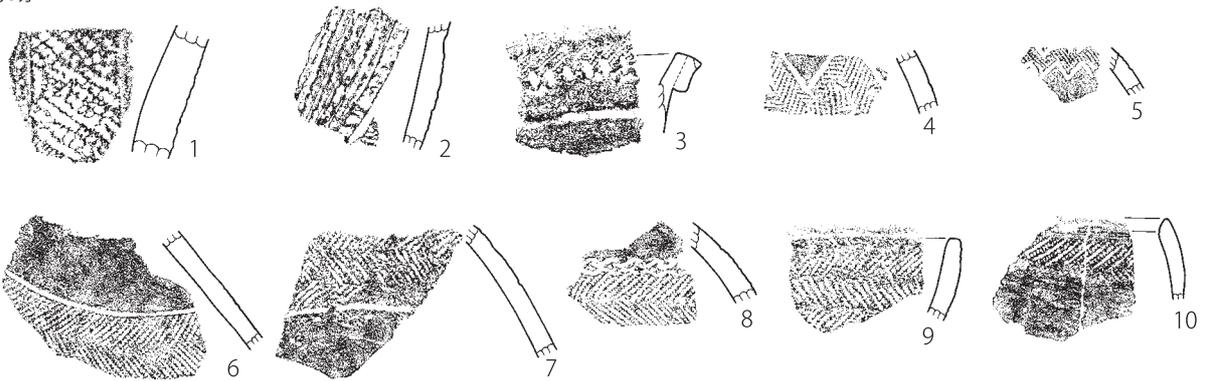


第8図 断面図(3)

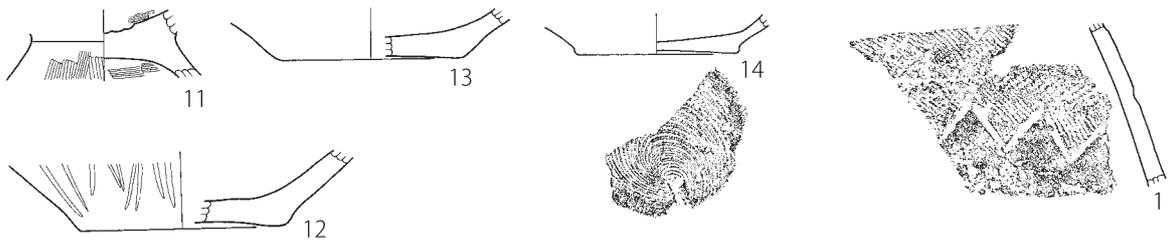
1号跡



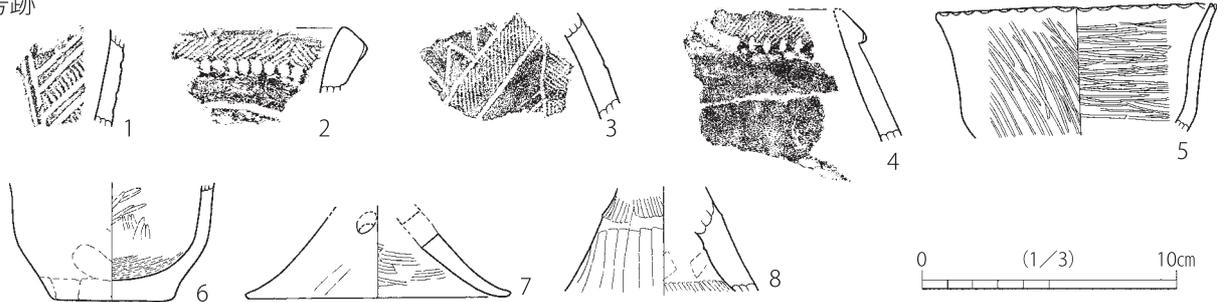
2号跡



3号跡

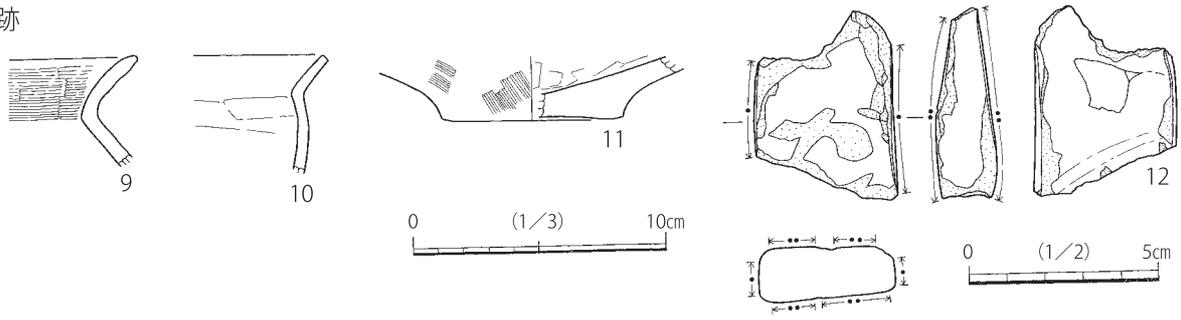


4号跡

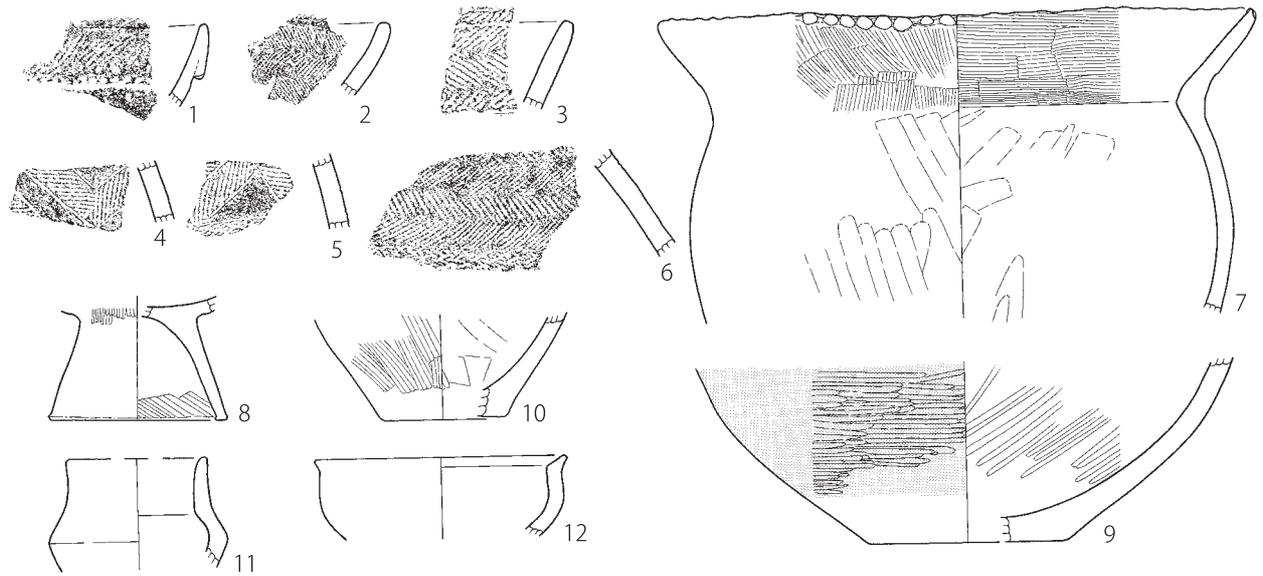


第9图 出土遺物(1)

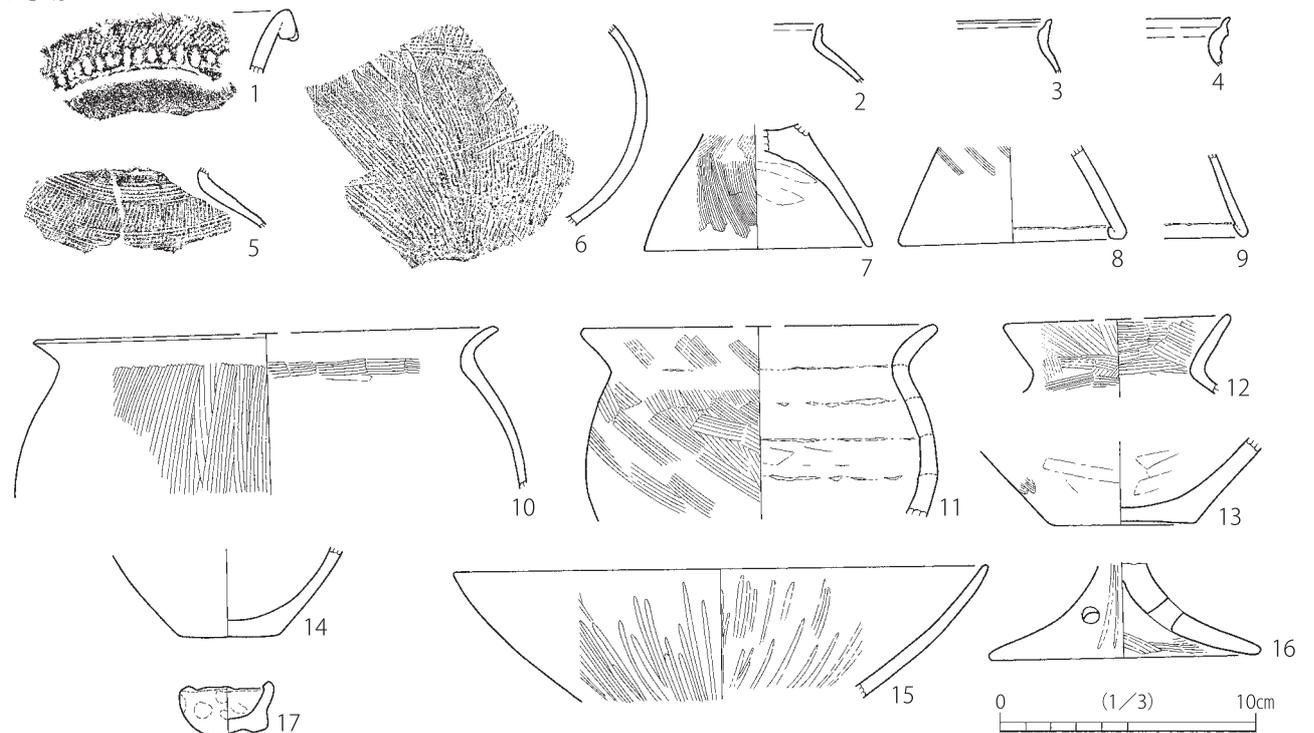
4号跡



5号跡

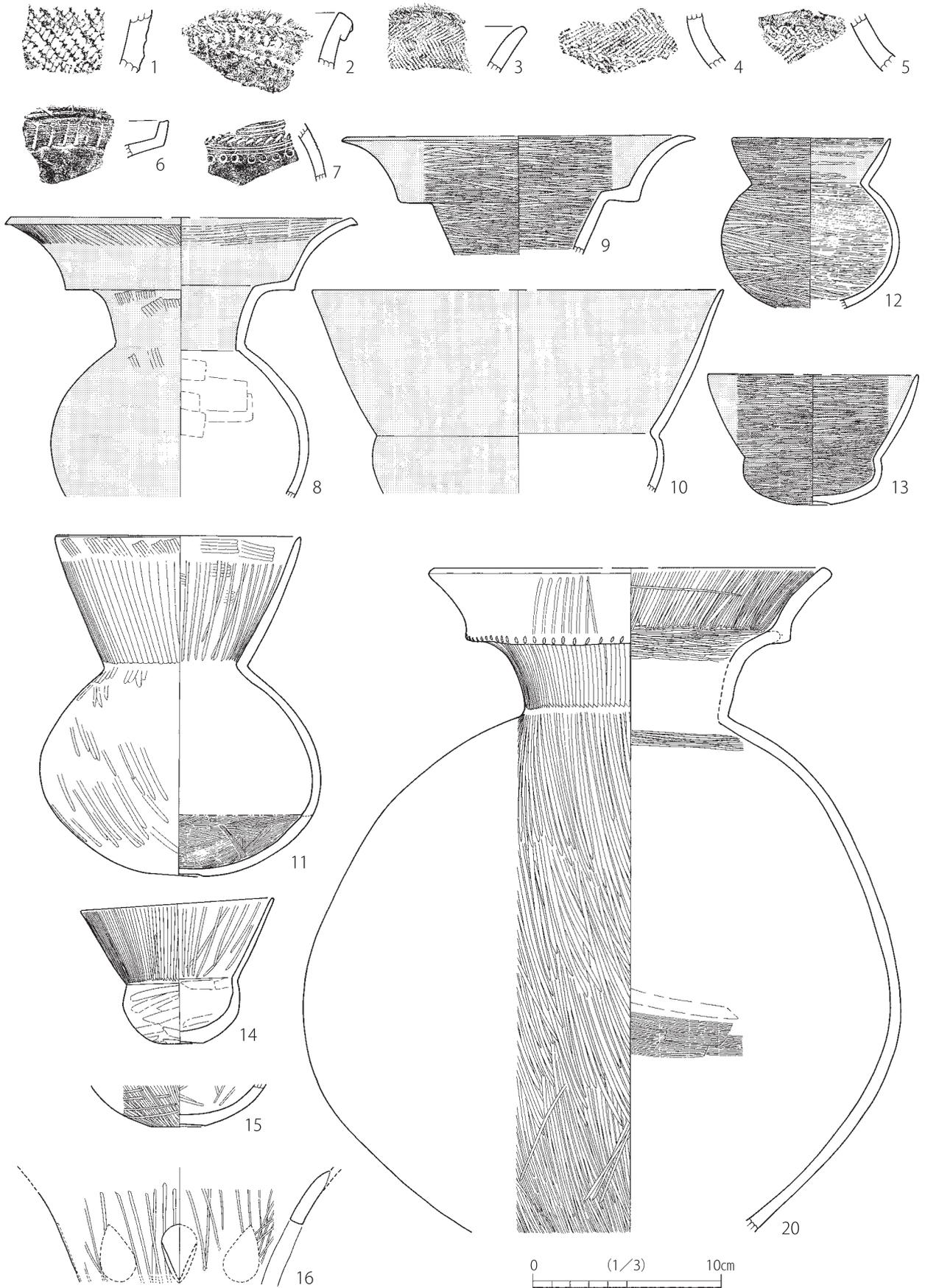


6号跡



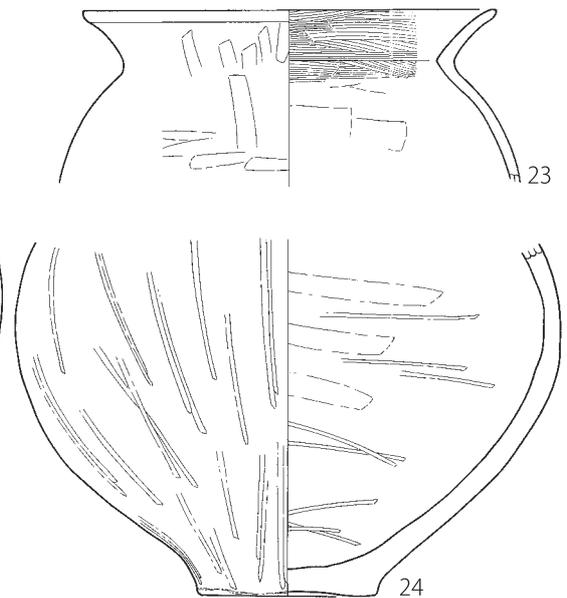
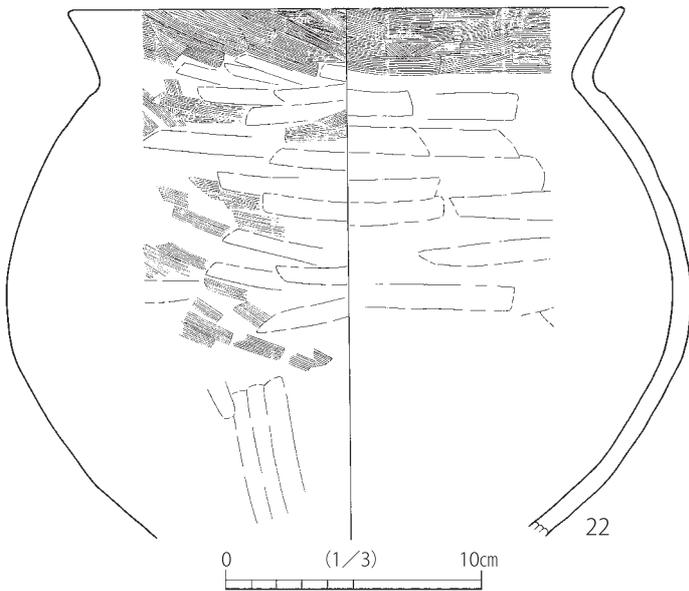
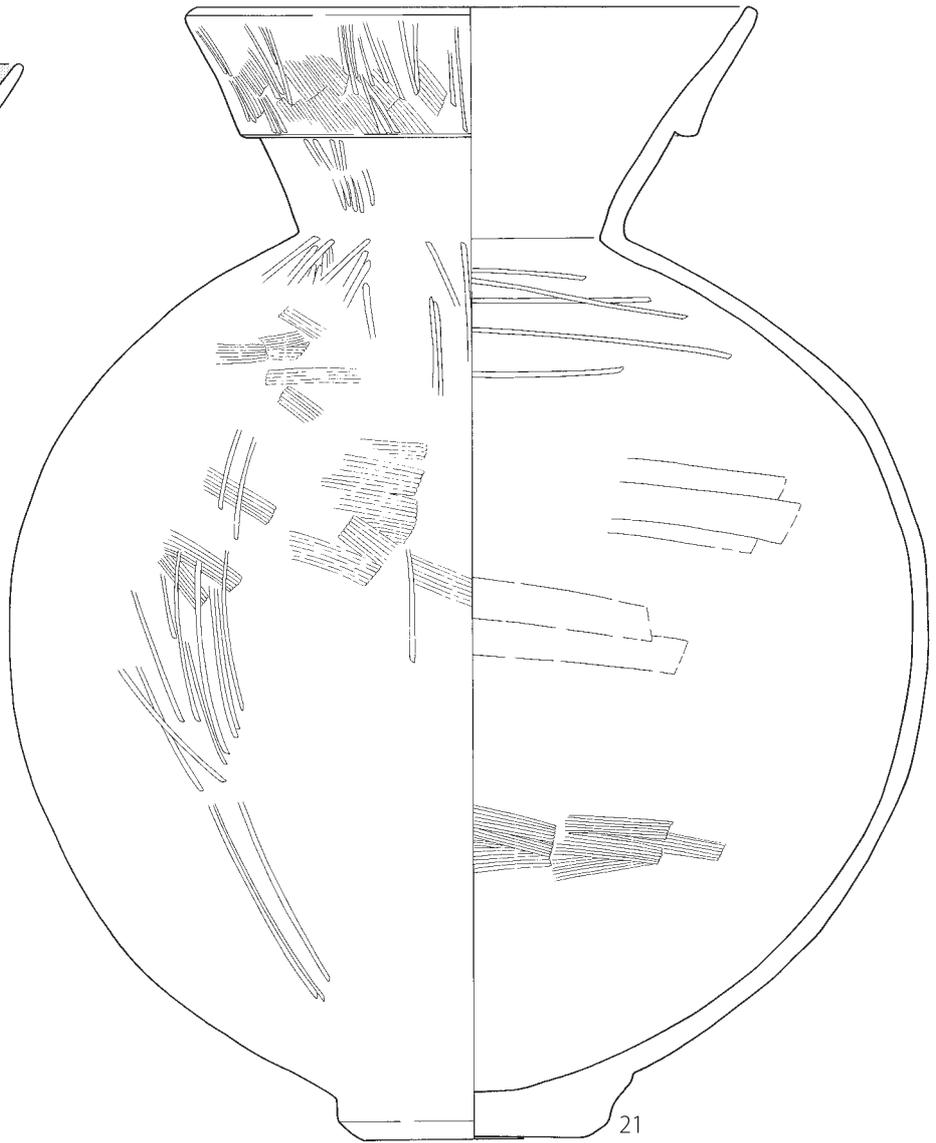
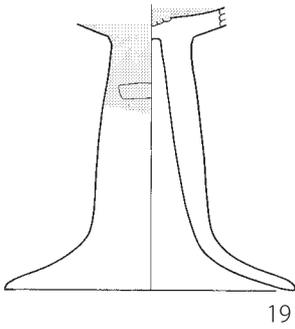
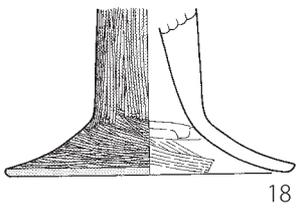
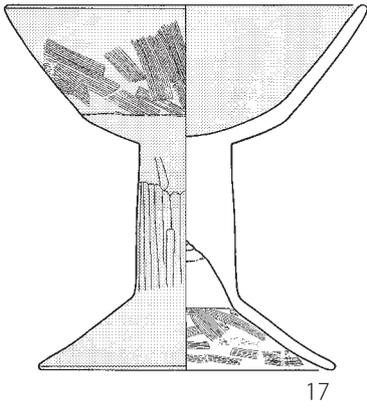
第10图 出土遺物(2)

7号跡



第11图 出土遺物(3)

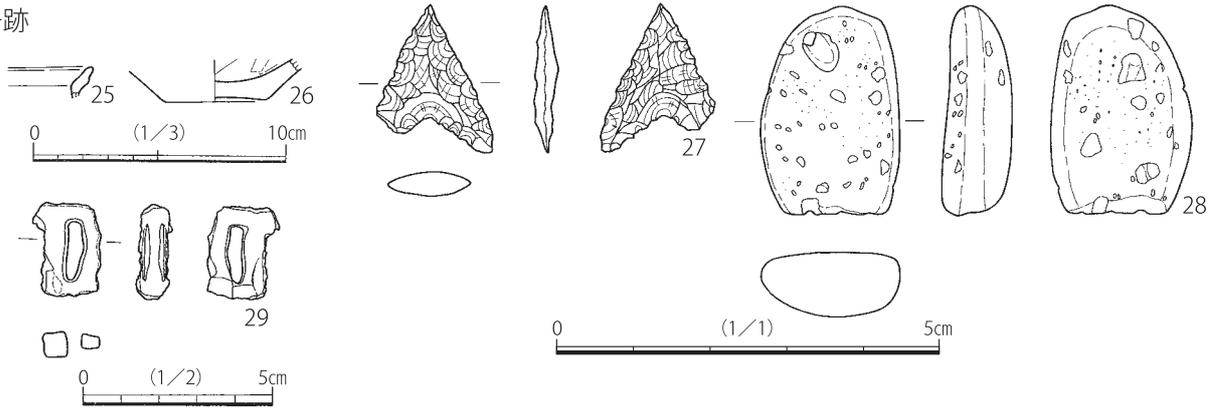
7号跡



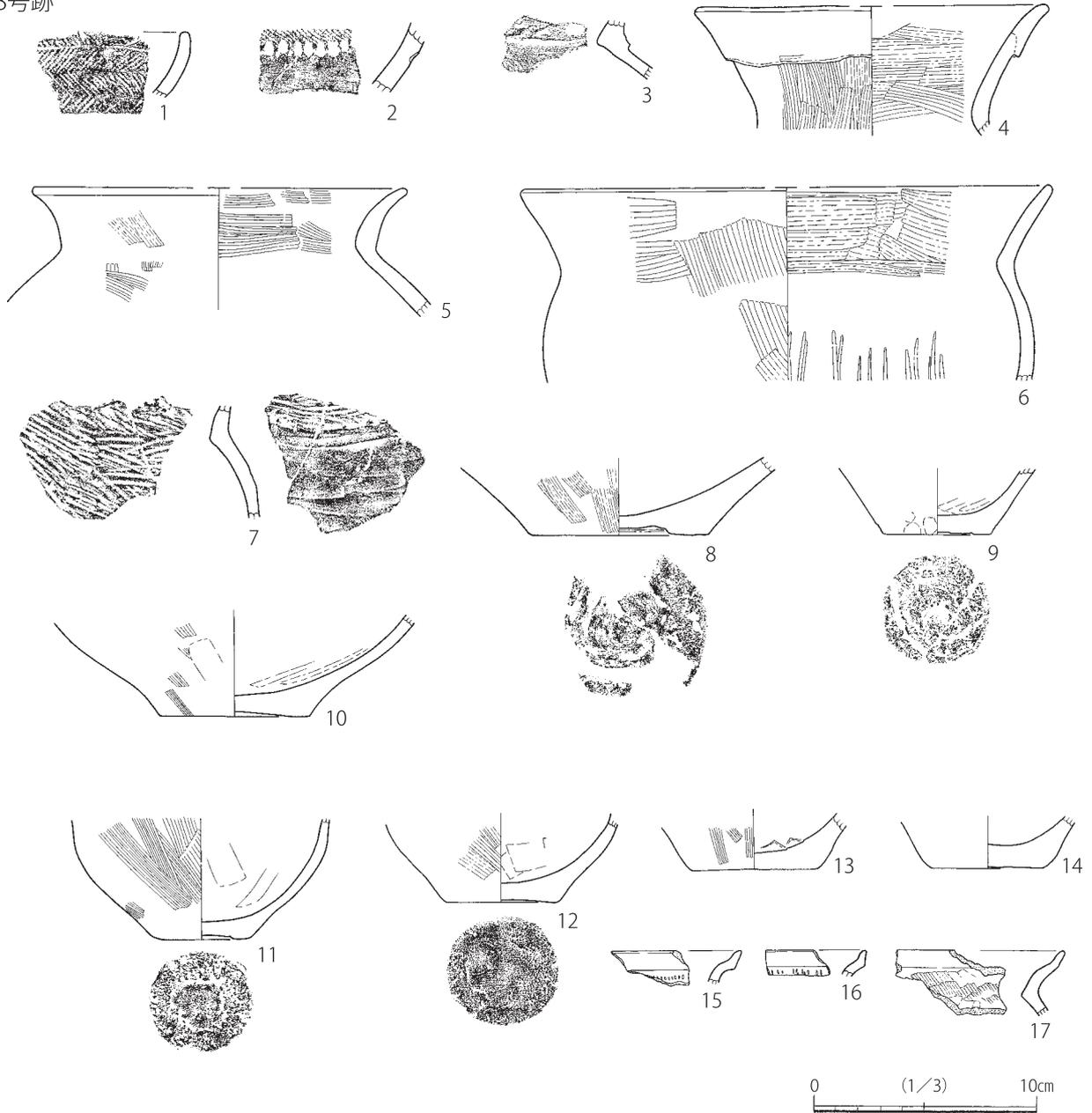
0 (1/3) 10cm

第12図 出土遺物(4)

7号跡

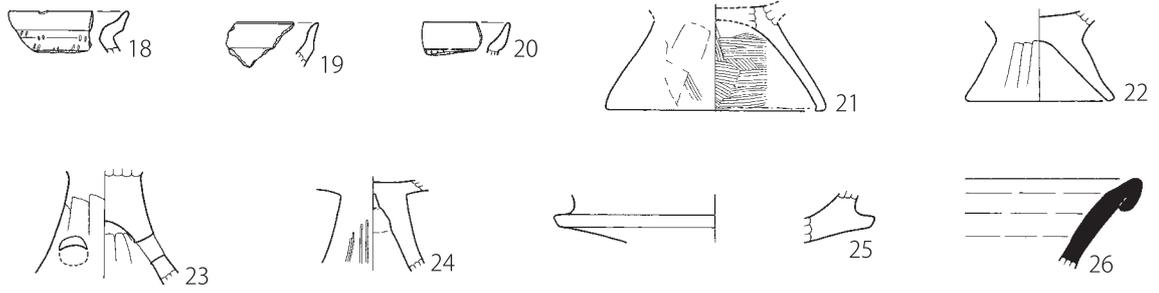


8号跡

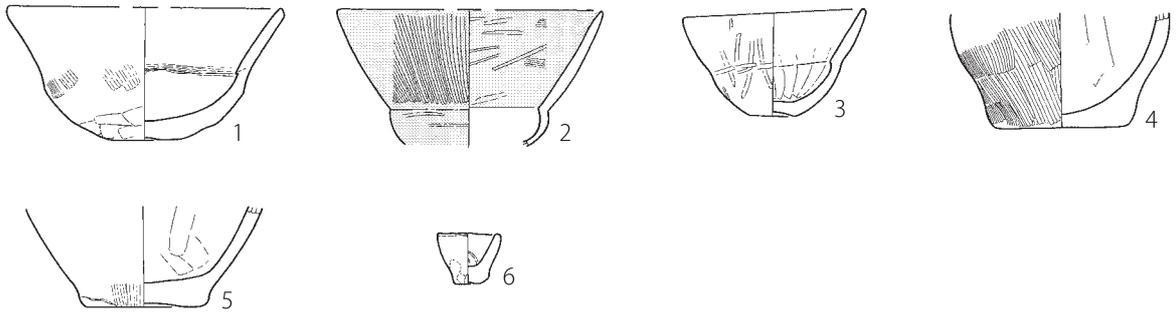


第13図 出土遺物(5)

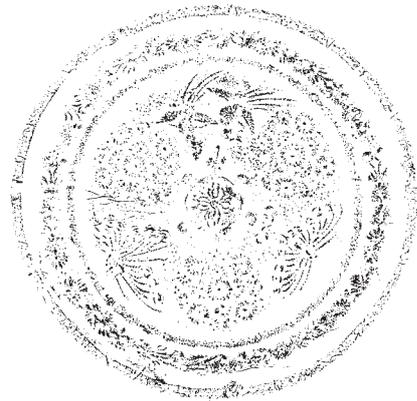
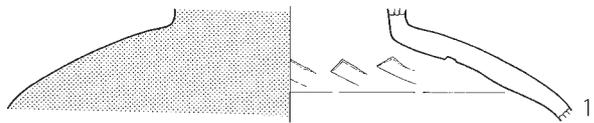
8号跡



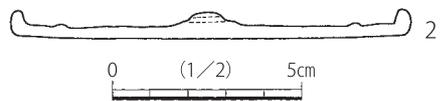
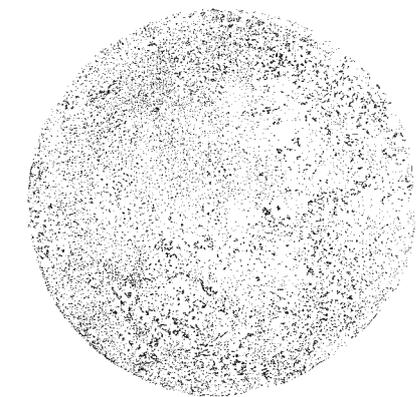
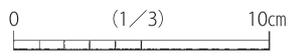
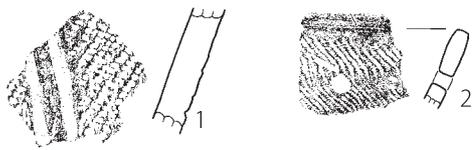
9号跡



10号跡



一括出土遺物



第14図 出土遺物(6)

3号跡

位置 調査区の北側に位置し、南側で6号跡と重複している。

形態 掘り込みは残存せず、床面の可能性がある硬化面及び浅いピットが検出されたのみであった。

構造 床面と考えられる硬化した面が存在しており、竪穴住居跡の項に含めた。焼土等は検出されず、小規模な浅いピットが存在するのみである。図示できる遺物は文様体を沈線で区画した壺片1のみである。

第2節 古墳時代

1. 竪穴住居跡

概要

調査によって検出された古墳時代の竪穴住居跡は、3軒ある。前期の竪穴住居であるが、遺構の深さは20～40cm程度に止まっている。いずれも円墳である8号跡と重複ないしは近接している。

4号跡

位置 調査区の北端に位置し、南西側で8号跡に切られている。

形態 北側は調査区外となっているが、径6m前後の隅丸方形を呈すると考えられる。

構造 床面は、比較的堅牢であり支柱穴の周囲を含む広い範囲が硬化していた。壁溝は検出されなかった。壁高は、20cm程度を測る。

炉跡は検出されず、北側調査区外に存在するものと考えられる。

掘り込みのしっかりしたピットが存在しており、支柱穴であるピットP1・2は、径40～50cm、深さ60～70cm程度を測る。P3は出入りに伴うピットであろうか。出土遺物は、P2付近覆土中～下層において口縁部に刻み目が残る小型甕5、及び6や高杯脚部8、南側の覆土中層より壺口縁部2が出土している。他に一括出土遺物として脚部に穿孔のある高杯7などが出土している。また、縄文土器片1も出土しているが、混入であろう。

5号跡

位置 調査区の北側に位置し、西側で8号跡及び6号跡、東側で9号跡に切られている。

形態 径5m前後の隅丸方形を呈すると考えられる。

構造 床面は、あまり堅牢ではなく、硬化面はほとんど検出されなかった。壁高は、40～50cm程度を測る。

中央北寄りに炉が存在し、径50～90cm、深さ10cm程度の掘り込みがあり、周囲にかけて地山が焼けていた。

ピットは、出入りに伴うと考えられるP1が検出されたのみで、径30～40cm、深さ30cm程度を測る。出土遺物は、南東側隅部の床面付近において壺底部9が出土し、P1付近覆土中層において、

椀形土器12が出土している。他はいずれも一括出土遺物であり、弥生土器片1～6の他に口縁部に刻み目が残る甕7や、台付甕8などが出土している。

6号跡

位置 調査区の北側に位置し、東側で5号跡と重複している。

形態 径5m程度の隅丸方形を呈すると考えられる。南辺中央部が凸状に50cm程度突出している。

構造 床面は比較的堅牢であり、出入り口部付近から炉跡周囲にかけて硬化していた。壁溝は検出されなかった。壁高は、20～30cm程度を測る。

中央北寄りに炉が存在し、径70～90cm、深さ10cm程度の掘り込みがあり、周囲にかけて地山が焼けていた。

周囲には、ピットが検出されなかったが、南辺中央部において、出入り口部に伴うと考えられるP1が検出された。50cm程度の方形の突出部に位置しており、径20～30cm、深さ20cmを測る。出土遺物は、東側覆土下層より台付甕7が出土し、中央部覆土中層より壺口縁部1が出土している。また、覆土上層では中央部東寄りから高杯15が出土している。他には、住居跡南東部付近より甕11・13が出土し、一括出土遺物としては小型の台付甕5・6や台付甕のS字状口縁部2～4、及び台脚部8・9などが出土している。

2. 古墳

概要

調査によって検出された古墳は、2基ある。方墳が1基、円墳が1基それぞれ存在するが、いずれも前期の所産と考えられる。周溝の一部が調査され、多くが調査区外に展開していると考えられる。

7号跡

位置 調査区の南側に位置する。北側で2号跡を切っており、1号跡に隣接する。

形態 東側及び西側の多くが調査区外となっているが、方墳と考えられる。やや隅の丸い方形を呈している。周溝の平面規模は径22～23m、深さ90～110cm前後を測る。

構造 墳丘部は削平されてしまっており、主体部などの土坑は検出されなかった。周溝は、北溝、南溝及び西溝の一部が検出されており、レンズ状の掘り込みを呈し、覆土は黒褐色土を基本とする。北・南溝は西側に向かって深くなる傾向がある。北溝内西側において土坑状の落ち込みが検出され、周溝内に埋葬施設があった可能性もあるが、遺物は多くが上層より出土している。

出土遺物は、北溝・南溝それぞれあるが、南溝からは、中央部の底面付近において埴11や甕24、東側底面付近において甕26が出土している。下層では中央部付近より埴14、高杯17、東側付近において甕22・23が出土している。また中層では北溝において西側部分より二重口縁の壺8、埴10・12が出土している。上層からは北溝より埴13・15、甕21がいずれも西側において出土している。他には一括出土遺物として二重口縁部を持ち赤彩を施した壺9や、透かし孔を穿孔している器台形土器16などが出土している。

8号跡・9号跡

位置 調査区の北側に位置する。4号跡及び5号跡を切っている。

形態 東側の多くが調査区外となっているが、円墳8号跡と考えられる周溝が検出された。また、墳丘部内南西側において、主体部と考えられる長方形を呈する土坑墓9号跡が検出された。

構造 円墳8号跡は、平面規模は径20m前後と考えられ、周溝は、西側の一部のみが検出されているが、幅1.5～2.0m、掘り込みは0.5～0.8m程度を測る。覆土は黒色土を基本とする。

遺物は、中層において凹み底を呈した壺底部8、10が出土し、上層において甕底部9や、凹み底を呈した11、及び12が出土している。他には、一括出土遺物としてタタキ目とも見られる痕跡がある甕頸部片7やS字状の口縁部15～20、台付甕の台脚部21・22や器台の破片と見られる25などが出土している。一方、須恵器甕の口縁部26も出土しているが、混入であろう。

また、墳丘部は削平されてしまっているが、南西側5号跡内に主体部と考えられる土坑墓9号跡が検出されている。主軸方位はN-28°-Wを測り、長径2.0・短径0.7m、深さ0.1m程度の長方形を呈するが遺存状況は良くない。埋土はローム粒を含む暗灰褐色土を基本とする。木棺痕跡等は検出されなかった。

遺物は、中央西寄り付近において埋土中層より小型甕の底部4が出土している。また、上層において北側部分より埴2・小型甕の底部5及び手捏ね土器6が出土し、西側において埴3が出土している。他には、一括出土遺物として埴1が出土している。玉類等は検出されなかった。

第3節 中世

1. 土坑跡

概要

調査によって検出された中世の土坑跡は、1基ある。2号跡内に位置し、遺構確認面の堆積層である暗灰褐色土上面より和鏡が出土した。下層には14世紀頃と考えられる瀬戸・美濃系陶器片が出土しており、室町期における土坑墓と考えられる。西方約0.6kmには蟻木城が存在しており、その関連が注目される。

10号跡

位置 調査区の中央西寄りに位置する。

形態 方形を呈し、平面規模は0.5×0.7m、深さ0.7m程度を測る。

構造 断面観察から、漏斗状の掘り込みを呈していたと考えられる。上面は削平されてしまっており、和鏡2が鏡面を上にして、確認面上に露出した状態で出土した。鏡面には、炭化した藁状の植物茎片が付着しており、それに包まれていた可能性がある。鏡背面には中央に亀鈕、周囲に雛菊・蝶・尾長鶏を配しており、菊花蝶鳥文鏡と考えられる。

また、0.1m直下の覆土上層において14世紀頃と考えられる瀬戸・美濃系陶器の瓶片1が出土している。遺構内に焼土の堆積が認められており、土坑墓であった可能性が高いと考えられる。

第4節 一括出土遺物

概要

当調査地点は、調査面積が狭小であったが遺構内の出土遺物は比較的多く、遺構内上層遺物については耕作による遺物の飛散も考えられることから、一部の遺物については遺構に隣接した確認面上の遺物であっても、遺構一括出土遺物に含めたものがある。現地表面から遺構確認面までの層厚は30～40cm程度であり、周囲は耕作による堆積層の散逸が著しく、今回採集された一括出土の遺物量は、堆積当時に包含されていた遺物量よりかなり少ないと思われる。

遺跡の一括出土遺物としては、1が縄文土器加曾利E式の深鉢胴部片、2は弥生時代後期鉢の口縁部が出土している。2は口縁部に焼成後の穿孔を施している。

第3章 まとめ

今回の調査は限られた範囲であったが、弥生時代後期から中世にわたる多くの遺構が検出された。本遺跡の遺構の変遷を概観すると、弥生時代後期から古墳時代前期にかけて、竪穴住居跡が展開し居住域としての土地利用があり、前期古墳が築造された。古墳は、7号跡（方墳）では二重口縁の壺やS字状の口縁部を持つ甕が出土し、8号跡（円墳）では、凹み底を呈した甕といった外来系の土器片が出土しており、畿内や東海地方などと何らかの関係を持つ被葬者が古墳の造営に関わったことが想定される。北方に展開していく諏訪台・神門・辺田古墳群についても、外来系土器が出土した古墳の存在を指摘することができるので、これらの古墳群の被葬者と本遺跡の古墳の被葬者との間に何らかの共通点が存在したかについて、解明されることが期待される。

その後は、確認調査時において北東地区より平安時代の土師器や灰釉陶器が出土しており、一部竪穴住居跡が存在していた可能性があるものの、基本的には古墳築造後は墓域として認知されるようになり、中世室町期において和鏡を埋納した土坑墓が造られた。これは、西方約0.6kmに位置する戦国期の蟻木城との関連があるかもしれない。

これまで、あまり調査例のなかった当地において、畿内・東海地方とのつながりを示唆する古墳群が検出されたことは、市原地域の古墳における他地域との交流を考える上で大きな成果と言えるだろう。

(参考文献)

- 永沼律朗 1996 『千葉県重要古墳群測量調査報告書』「市原市安須・武士古墳群ほか」 千葉県教育委員会
白井久美子 他 2003 『千葉県の歴史』資料編 考古2 (弥生・古墳時代) (財)千葉県史料研究財団
木對和紀 2004 『市原市辺田古墳群・御林跡遺跡』(財)市原市文化財センター
内川隆志・中村 大 2006 『服部和彦氏寄贈資料図録Ⅰ 和鏡・柄鏡』 國學院大學考古学資料館
高橋康男 2007 『平成18年度 市原市内遺跡発掘調査報告』「海士遺跡群三入道地区」 市原市教育委員会

海士遺跡群（三入道地区） 出土遺物観察表

第1表 出土遺物観察表（1）

連構 No	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径(上径)	底径(下径)	器高	最大径
1	弥生土器	小型壺	頸～底部 60%	褐色(5YR6/8)	頸部LRの斜縄文、沈線で区画。肩部LRの斜縄文、沈線で区画。体部上半沈線で区画された連続山形文内にLRの縄文。体部ヘラミガキ、赤彩	ナデ、ヘラナデ	良	密	3.4	4.3	9.3	10.8
1	弥生土器	壺	口縁部片	褐色(5YR6/8)	折り返し口縁部LRの斜縄文、下端に縄文原体押捺による刻み目。体部ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
1	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	折り返し口縁部に羽状縄文、下端にヘラ状工具による刻み目。体部ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
1	弥生土器	壺	口縁部片	褐色(2.5YR6/6)	口唇部LRの斜縄文、頸部ヘラミガキ、赤彩	口縁部に羽状縄文、下端に2条のS字状結節文による区画、頸部ヘラミガキ、赤彩	良	密				
1	弥生土器	壺	胴部片	褐色(5YR6/6)	肩部に羽状縄文、2条のS字状結節文による区画、体部ヘラミガキ	ヘラナデ	良	密				
1	弥生土器	壺	胴部片	褐色(5YR6/6)	肩部に羽状縄文、刺突を持った円形浮文を貼り付ける、下端にヘラ状工具による刻み目	ヘラミガキ、ヘラナデ、上部赤彩	良	密				
1	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR6/6)	上部部LRの斜縄文、2条のS字状結節文により区画。体部下位の有段部には縄文原体押捺による刻み目。体部ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ	良	密				
1	弥生土器	壺	胴部片	褐色(5YR6/8)	上部部2条のS字状結節文、直下にヘラ状工具による刻み目。体部ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
1	弥生土器	高杯	杯部下端～脚部 40%	褐色(5YR6/8)	杯部と脚部の接合部に縹帯巡り、縄文原体押捺による刻み目。脚部ヘラミガキ、ヘラナデ	杯部ヘラミガキ、脚部ヘラナデ	良	密	6.0	7.6	4.4	
1	土師器	高杯	杯部下端～脚部 40%	褐色(5YR6/8)	脚部ヘラケズリ、赤彩	杯部ヘラミガキ、赤彩、脚部ヘラナデ	良	密	5.6	4.7	3.8	
1	弥生土器	甕	口縁部片	明赤褐色(5YR5/6)	口唇部ヘラ状工具による刻み目	ナデ、ヘラナデ	良	密				
1	弥生土器	甕	口縁部片	明赤褐色(5YR5/6)	口唇部ヘラ状工具による刻み目	ナデ、ヘラナデ	良	密				
1	弥生土器	甕	胴部下半～底部 20%	褐色(5YR6/8)	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	8.8	5.4	1.9	
1	弥生土器	小型甕	胴部下半～底部 30%	褐色(5YR6/6)	ヘラナデ、下部部指頭による押捺	ナデ、ヘラナデ	良	密	5.4	4.4	1.6	
1	弥生土器	甕か	口縁部片	褐色(2.5YR6/8)	口縁部ヘラ状工具による刻み目。ナデ、ヘラナデ	上半に凸帯、ナデ、凸帯の上下端にヘラ状工具による連続刺突	良	密				
1	縄文土器	深鉢	胴部片	明赤褐色(5YR5/8)	曲線状に押し引き文。中期加曽利式か	ナデ	良	やや粗				
2	縄文土器	深鉢	胴部片	褐色(7.5YR6/8)	LRの縄文入り、太い沈線。中期加曽利式	ナデ	良	やや粗				
2	縄文土器	深鉢	胴部片	褐色(5YR6/8)	縄文地文に条線文。後期粗製土器か	ナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	口縁部片	褐色(7.5YR7/6)	折り返し口縁、口唇部LRの斜縄文、外縁に縄文原体押捺による刻み目。体部ヘラミガキ、赤彩	ヘラナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR6/6)	沈線で区画された連続山形文に斜行縄文帯巡り、赤彩	ヘラナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR7/6)	沈線で区画された連続山形文にLRの縄文帯巡り	ヘラナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR7/6)	沈線で区画された中に羽状縄文帯巡り、ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、ヘラナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR6/6)	沈線で区画された中に羽状縄文帯巡り、赤彩	ヘラナデ	良	密				
2	弥生土器	壺	胴部片	褐色(7.5YR6/8)	2条のS字状結節文で区画された中に羽状縄文帯巡り、赤彩	ヘラナデ、ナデ	良	密				
2	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	口唇部羽状縄文	ヘラナデ、ナデ	やや不良	やや粗				
2	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(5YR6/6)	口唇部LRの斜縄文。ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
2	土師器	高杯	杯部下端～脚部 20%	褐色(5YR6/6)	ハケメ	ハケメ	良	密	5.8	7.8	2.7	
2	弥生土器	壺	胴部下半～底部 20%	褐色(5YR6/6)	ヘラミガキ	ナデ、ヘラナデ	良	密	13.6	8.0	3.0	
2	弥生土器	壺	胴部下半～底部 20%	褐色(7.5YR6/6)	ヘラミガキ	ナデ、ヘラナデ	良	密	11.0	7.0	1.9	
2	土師器	杯	杯部下半～底部 30%	にぶい褐色(7.5YR6/4)	ロクロ調整、底部回転赤切り無調整	ロクロ調整	良	密	8.8	6.4	1.6	

※径は、復元値を含む。高さは、現存高 (cm)。

第2表 出土遺物観察表(2)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高 (cm)。

遺構 No	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径(上径)	口径(下径)	器高	最大径
3	1	弥生土器 壺	胴部片	明褐色(7.5R5/6)	沈線で区画された連続山形文に斜行縄文帯施す	ヘラナデ	良	密				
4	1	縄文土器 深鉢	胴部片	褐色(5YR6/8)	数条の沈線で区画された中に、押引文施す。中期勝越式か	ナデ	良	やや粗				
4	2	弥生土器 壺	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	折り返し口縁、口唇部LRの斜縄文、外縁に縄文原形押捺による刻み目施す	ヘラミマガキ、赤彩	良	密				
4	3	弥生土器 壺	胴部片	褐色(5YR6/6)	沈線で区画された連続山形文にLRの斜行縄文施す、直上に山形連続文の沈線が入る、赤彩	ヘラミマガキ	良	密				
4	4	弥生土器 鉢	口縁部片	褐色(2.5YR6/8)	折り返し口縁部LRの斜縄文、下部に縄文原形押捺による刻み目施す、赤彩	ヘラミマガキ、赤彩	やや不良	密				
4	5	弥生土器 小型甕	口縁～胴部下半40%	褐色(7.5YR6/6)	口縁部ヘラ状工具による刻み目、斜位のヘラミマガキ	横位のヘラミマガキ	良	密	11.1	8.4	5.1	
4	6	弥生土器 小型甕	胴部上半～底部60%	明褐色(7.5Y5/6)	ヘラナデ、一部ヘラミマガキ	ヘラミマガキ	良	密	8.2	5.0	4.8	
4	7	土師器 高杯	脚部のみ20%	褐色(5YR6/8)	ヘラナデ、ヘラミマガキ、上部に焼成前穿孔施す	ヘラナデ、ハケメ	良	密	3.2	10.4	3.8	
4	8	土師器 高杯	脚部のみ30%	明赤褐色(5YR5/6)	上部ハケメ、中～下部ヘラナデ、ヘラミマガキ	ヘラナデ、下部ハケメ	良	密	3.5	7.7	4.4	
4	9	土師器 甕	口縁部片	赤褐色(5YR4/6)	ハケメ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ	良	密				
4	10	土師器 甕	口縁部片	褐色(2.5YR6/8)	ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密				
4	11	土師器 甕	胴部下半～底部20%	褐色(2.5YR6/6)	ヘラナデ、ハケメ	ヘラナデ	良	密	12.2	7.2	2.6	
4	12	石器 砥石	端部欠失	淡褐色	上、下端欠失、側面より表裏面が磨耗痕著しい、重量12.1g。泥岩質	ヘラナデ	良	密	全長5.2	幅長3.7	厚み1.4	
5	1	弥生土器 壺	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	折り返し口縁部LRの斜縄文、下部にヘラ状工具押捺による刻み目施す、胴部ヘラミマガキ、赤彩	ヘラミマガキ、赤彩	良	密				
5	2	弥生土器 浅鉢	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	口縁部羽状縄文施す	ヘラミマガキ、赤彩	良	密				
5	3	弥生土器 浅鉢	口縁部片	褐色(5YR6/8)	口唇部LRの斜縄文、口縁部羽状縄文施す	ヘラミマガキ、赤彩	良	密				
5	4	弥生土器 壺	胴部片	褐色(7.5YR6/6)	沈線で区画された山形連続文に斜行縄文帯施す、無文部ヘラミマガキ、赤彩	ヘラナデ、ナデ	良	密				
5	5	弥生土器 壺	胴部片	黒褐色(7.5YR3/1)	沈線で区画された山形連続文に斜行縄文帯施す	ヘラナデ、ナデ	良	密				
5	6	弥生土器 壺	胴部片	にぶい黄褐色(10YR6/4)	上部に羽状縄文帯施す、下部にS字状結節文施す	ヘラナデ、ナデ	やや不良	密				
5	7	土師器 甕	口縁～胴部20%	褐色(5YR6/8)	口唇部に指押捺による刻み目施す、口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ	口縁部ハケメ、胴部ヘラナデ、ナデ	良	やや粗	23.6	20.4	12.1	
5	8	土師器 台付甕	胴部下半～底部20%	明赤褐色(2.5YR5/6)	胴部下半ハケメ、脚部ヘラナデ、ナデ	ナデ、ヘラナデ、脚部斜位のハケメ	良	密	5.9	7.0	4.9	
5	9	土師器 壺	胴部下半～底部40%	褐色(7.5YR6/6)	胴部下半横位のヘラミマガキ重ねる、赤彩	ヘラナデ、斜位のヘラミマガキ	良	密	21.2	7.8	7.2	
5	10	土師器 小型甕	胴部下半～底部20%	褐色(7.5YR6/6)	斜位のハケメ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	9.9	4.9	4.2	
5	11	土師器 壺	口縁～胴部40%	明赤褐色(2.5YR5/8)	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	5.6	6.0	4.4	7.1
5	12	土師器 鉢	口縁～胴部30%	黒褐色(7.5YR3/1)	ナデ、ヘラナデ	口縁部ヨコナデ、体部ヘラナデ、ナデ	やや不良	密	10.0	7.6	3.2	
6	1	弥生土器 壺	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	折り返し口縁部LRの斜縄文、下部に縄文原形押捺による刻み目施す、胴部ヘラミマガキ、ヘラナデ	ヘラミマガキ、ヘラナデ	良	密				
6	2	土師器 台付甕	口縁部片	褐色(5YR6/8)	S字状口縁、ナデ、ハケメ	ナデ、ヘラナデ	良	密(体部部入)				
6	3	土師器 台付甕	口縁部片	褐色(5YR6/6)	S字状口縁、ナデ、ハケメ	ナデ、ヘラナデ	良	密(体部部入)				
6	4	土師器 台付甕	口縁部片	褐灰色(7.5YR4/1)	S字状口縁、ナデ、屈曲部にハケメ	ナデ	良	密				
6	5	土師器 台付甕	胴部片	褐色(7.5YR7/6)	縦位のハケメ、上下に櫛状工具による平行沈線施す	ヘラナデ、ナデ	良	密				
6	6	土師器 台付甕	胴部片	灰褐色(7.5YR4/2)	上部は櫛状工具による平行沈線、下部は斜位のハケメを重ねる	ヘラナデ	良	密				
6	7	土師器 台付甕	脚部のみ40%	明赤褐色(5YR5/6)	縦～斜位のハケメを重ねる	ナデ、ヘラナデ	良	密	4.4	9.1	4.9	
6	8	土師器 台付甕	脚部のみ30%	赤褐色(5YR4/6)	上部に斜位のハケメが入る	ヘラナデ、ナデ、端部折り返し	良	密	5.6	8.8	3.8	
6	9	土師器 台付甕	脚部片	褐色(7.5YR6/6)	ヘラナデ、ナデ	ナデ、ヘラナデ、端部折り返し	良	密				
6	10	土師器 甕	口縁～胴部20%	明赤褐色(5YR5/6)	縦～斜位のハケメを重ねる	ヘラナデ、ナデ、頸部横位のハケメ	良	密	18.4	20.4	6.6	

第3表 出土遺物観察表(3)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高 (cm)。

連構No	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径(上径)	底径(下径)	器高	最大径
6	11	土師器	甕	褐色(7.5YR6/6)	胴部、斜位のハケムを重ねる	ヘラナナズ、ナデ	良	密	14.2	12.9	7.8	13.9
6	12	土師器	口縁～胴部上端2.0%	明赤褐色(5YR5/6)	斜～斜位のハケム重ねる	斜～横位のハケム	良	密	9.0	7.8	3.2	
6	13	土師器	胴部下半～底部2.0%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラナナズ、ナデ	ヘラナナズ、ナデ	良	密	11.1	5.6	3.4	
6	14	土師器	胴部下半～底部3.0%	明褐色(7.5YR5/6)	ヘラナナズ、ナデ	ヘラナナズ、ナデ	良	密	9.1	4.0	3.6	
6	15	土師器	杯部のみ3.0%	赤色(10R5/8)	縦位のヘラミガキ	縦位のヘラミガキ	良	密	21.0	11.2	5.2	
6	16	土師器	脚部のみ4.0%	褐色(5YR6/6)	縦位のヘラミガキ、中央に穿孔施す	ヘラナナズ、ナデ、下部にハケム	良	密	1.9	10.8	3.9	
6	17	土師器	ほぼ完存	褐色(7.5YR6/6)	ナデ、指頭残る	指頭跡による作りだし	良	密	3.8	2.8	2.0	
7	1	縄文土器	胴部片	褐色(7.5YR6/6)	RLの斜線文施す。中期加重利式	ナデ	良	密				
7	2	弥生土器	甕	褐色(5YR6/6)	折り返し口縁、口唇部にLRの斜線文、外縁にヘラ状工具による刻み目施す	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
7	3	弥生土器	鉢	褐色(7.5YR6/6)	口縁部に羽状文施す	ヘラミガキ、ヘラナナズ	良	密				
7	4	弥生土器	甕	褐色(7.5YR4/3)	胴部に羽状文、下縁にS字状唇部文施す	ヘラナナズ	良	密				
7	5	弥生土器	甕	褐色(2.5YR6/8)	胴部にLRの斜線文、上縁にS字状唇部文施す、無文部ヘラミガキ、赤彩	ヘラナナズ	良	密				
7	6	土師器	甕	褐色(5YR6/8)	二重口縁、口縁部に飾状工具による連続刺突文施す、頸部ヘラミガキ	ヘラミガキ、ヘラナナズ	良	密				
7	7	土師器	甕	褐色(5YR6/8)	上部は飾状工具による平行沈線が巡る中に、連続刺突文、下部は円形連続刺突文施す	ヘラナナズ	良	密				
7	8	土師器	甕	明赤褐色(2.5YR5/8)	二重口縁、口縁部斜位のハケム、頸部～体部ヘラミガキ、一部斜位のハケム、赤彩	口縁部横位のハケム、頸部ヘラミガキ、体部ヘラナナズ、口縁～頸部赤彩	良	密	19.0	12.2	15.3	
7	9	土師器	甕	赤色(10R4/6)	二重口縁、口縁～頸部ヘラミガキを重ねる、赤彩	口縁～頸部ヘラミガキ、赤彩	良	密	19.0	7.0	6.4	
7	10	土師器	埴	褐色(2.5YR6/8)	ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、口縁～頸部赤彩	良	密	22.0	14.6	11.1	
7	11	土師器	埴	明赤褐色(2.5YR5/8)	口縁部斜位のハケム、頸部縦位のヘラミガキ、体部縦～斜位のヘラミガキ、ヘラナナズ	口縁部横位のハケム、頸部縦位のヘラミガキ、体部下半斜～横位のハケム重ねる	良	密	13.2	3.8	18.4	
7	12	土師器	埴	赤色(10R4/8)	ヘラミガキ、赤彩	口縁部ヘラミガキ、体部ヘラミガキ、ヘラナナズ、口縁～頸部赤彩	良	密	8.6	3.6	9.2	
7	13	土師器	埴	暗赤色(10R3/6)	ヘラミガキを重ねる、赤彩	横位のヘラミガキを重ねる、赤彩	良	密	10.4	2.2	7.2	
7	14	土師器	埴	明赤褐色(2.5YR5/8)	口縁～頸部縦位のヘラミガキ、体部ヘラナナズ	口縁～頸部縦位のヘラミガキ、体部ヘラナナズ	良	密	10.4	2.4	7.6	
7	15	土師器	埴	赤褐色(2.5YR4/6)	斜～横位のヘラミガキ	ヘラナナズ、一部ヘラミガキ	良	密	9.4	2.8	2.2	
7	16	土師器	器受部2.0%	灰黄褐色(10YR4/2)	縦位のヘラミガキ、ヘラナナズ、透かし穴あり	縦～斜位のヘラミガキ、ヘラナナズ	良	密	16.2	10.8	6.0	
7	17	土師器	口縁～脚部8.0%	赤色(10R4/6)	杯部縦～斜位のハケム、脚部縦位のヘラミガキ、赤彩	杯部ヘラミガキ、赤彩、脚部縦～斜位のハケム	良	密	14.4	11.6	14.6	
7	18	土師器	脚部下半～脚部8.0%	赤色(10R4/8)	脚部縦位のヘラミガキ、杯部斜～横位のヘラミガキ、赤彩	ヘラナナズ、ヘラケズリ、杯部斜～横位のハケム	良	密	3.9	11.4	6.8	
7	19	土師器	杯部下端～脚部6.0%	明赤褐色(2.5YR5/8)	ヘラナナズ、ヘラミガキ、上半部赤彩	ナデ、ヘラナナズ	良	密	5.9	11.5	11.4	
7	20	土師器	口縁～脚部下端8.0%	褐色(5YR6/8)	二重口縁、口縁部下端ヘラ状工具による刻み目施す、口縁部縦位のヘラミガキ、頸部縦位のヘラミガキ	口縁部斜位のヘラミガキ、頸部横位のヘラミガキ、体部ヘラナナズ、一部横位のハケム	良	密	21.6	15.2	36.2	32.1
7	21	土師器	口縁～底部8.0%	褐色(2.5YR6/8)	二重口縁、口縁部折り返し。口縁部ヘラナナズ、斜位のハケム、一部縦位のヘラミガキ、頸部ヘラナナズ、縦位のヘラミガキ。体部ヘラナナズ、横～斜位のハケム、縦位のヘラミガキ	ナデ、ヘラナナズ、体部上半横位のヘラミガキ、下半、横位のハケム	良	密	22.6	8.8	45.4	36.2
7	22	土師器	口縁～脚部下半4.0%	黒褐色(7.5YR3/2)	口縁部斜位のハケム重ねる、脚部斜～横位のハケム、ヘラナナズ	口縁部横位のハケム重ねる、脚部ヘラナナズ	良	密	22.0	15.4	21.3	
7	23	土師器	口縁～脚部上半3.0%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラナナズ	口縁～頸部横位のハケム重ねる、脚部ヘラナナズ	良	密	16.4	18.3	7.0	
7	24	土師器	脚部上半～底部8.0%	褐色(5YR6/8)	縦位のヘラミガキ、ヘラナナズ	横位のヘラミガキ、ヘラナナズ	良	密	19.8	7.0	14.4	21.5
7	25	土師器	器受部片	褐色(5YR6/6)	S字状口縁、ナデ	ナデ	良	密				
7	26	土師器	底部のみ6.0%	黒褐色(7.5YR3/2)	ヘラナナズ、ナデ	ヘラナナズ、ナデ	良	密	6.8	4.0	1.7	
7	27	石器	脚部一部欠損	半透明な黒色	重量0.9g。黒曜石製		良	密	全長1.96	横長1.48		厚24.03
7	28	石器	下部欠損	白灰色	重量1.1g		良	密	全長2.78	横長1.82		厚24.86

第4表 出土遺物観察表(4)

※径は、復元値を含む。高さは、現存高 (cm)。

連構	No	種別	器種	遺存	色調	外面の特徴	内面の特徴	焼成	胎土	口径(上径)	底径(下径)	器高	最大径
7	29	鉄器	方形鉄製品	破片		重量5.6g。中央に楕円形の孔あり、断面方形状を呈す				全長2.5	幅長1.45	厚み0.65	
8	1	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(7.5YR7/6)	口唇部にRの斜線文、口縁部に羽状縄文施す	ヘラミガキ、ヘラナデ	良	密				
8	2	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(5YR6/6)	上部にRの斜線文、下端に縄文部体押捺による刻み目施す、縄文部ヘラミガキ、赤彩	ヘラミガキ、赤彩	良	密				
8	3	土師器	壺	頸部片	褐色(5YR6/6)	頸部と胴部の接合部帯帯巡り、ヘラ状工具による刻み目施す	ヘラナデ	良	密				
8	4	土師器	壺	口縁~胴部40%	褐色(7.5YR6/6)	口縁部折り返し。ナデ、一部横位のハケメ、頸部縦位のハケメ重ねる	ナデ、ヘラナデ、横~斜位のハケメ重ねる	良	密	15.9	10.4	5.9	
8	5	土師器	甕	口縁~体部上半30%	褐色(7.5YR4/3)	ナデ、一部ハケメ		良	密	15.8	19.0	5.6	
8	6	土師器	甕	口縁~体部上半30%	明赤褐色(5YR5/8)	ヘラナデ、一部ハケメ	口縁~頸部横位のハケメ、胴部縦位のヘラナデ	良	密	23.9	21.7	8.6	
8	7	土師器	甕	頸部片	浅黄褐色(7.5YR8/4)	タタキ目か	頸部タタキ目か、体部ヘラナデ	良	密				
8	8	土師器	甕	胴部下半~底部60%	灰黄褐色(10YR4/2)	縦位のハケメ、ヘラナデ、底面は凹み底を呈する	ヘラナデ、ナデ	良	密	14.2	8.0	3.6	
8	9	土師器	甕	胴部下半~底部80%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラナデ、ナデ、下部部に指頭痕	ヘラナデ	良	密	8.9	4.8	3.0	
8	10	土師器	甕	胴部下半~底部60%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラナデ、ハケメ、底面は凹み底を呈する	ナデ、ヘラナデ	良	密	16.2	6.8	4.9	
8	11	土師器	甕	胴部下半~底部60%	褐色(7.5YR6/6)	ハケメ、ヘラナデ、底面は凹み底を呈する	ヘラナデ	良	密	11.6	4.4	5.6	
8	12	土師器	甕	胴部下半~底部60%	褐色(5YR6/6)	ハケメ、ヘラナデ、底面は凹み底を呈する	ヘラナデ	良	密	10.4	5.0	4.5	
8	13	土師器	甕	胴部下半~底部80%	明赤褐色(2.5YR5/6)	ハケメ、ヘラナデ、ナデ	ヘラナデ、ナデ	良	密	8.2	5.6	2.8	
8	14	土師器	甕	胴部下半~底部40%	褐色(2.5YR6/6)	ヘラナデ、ナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	7.8	5.0	2.3	
8	15	土師器	台付甕	口縁部片	灰褐色(7.5YR4/2)	S字状口縁。ナデ、下部にハケ目状の刺突	ナデ	良	密				
8	16	土師器	台付甕	口縁部片	にぶい褐色(7.5YR6/4)	S字状口縁。ナデ、下部にハケ目か	ナデ	良	密				
8	17	土師器	台付甕	口縁~頸部片	にぶい褐色(7.5YR5/3)	S字状口縁。ナデ、ハケメ	ナデ、ヘラナデ	良	密				
8	18	土師器	台付甕	口縁部片	褐色(5YR6/8)	S字状口縁。ナデ、下部にハケ目か	ナデ	良	密				
8	19	土師器	台付甕	口縁部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	S字状口縁。ナデ	ナデ	良	密				
8	20	土師器	台付甕	口縁部片	褐色(2.5YR6/8)	S字状口縁。ナデ	ナデ	良	密				
8	21	土師器	台付甕	脚部30%	褐色(7.5YR6/6)	ヘラナデ、ハケメ	ナデ、横~斜位のハケメ重ねる	良	密	4.9	8.6	4.3	
8	22	土師器	台付甕	胴部下端~脚部60%	褐色(2.5YR6/6)	ヘラナデ、ナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	4.4	5.8	3.8	
8	23	土師器	高杯	胴部60%	明赤褐色(2.5YR5/8)	ヘラナデ、ヘラケズリ、下部に焼成前穿孔3ヶ所あり	ヘラナデ	良	密	3.0	5.7	4.4	
8	24	土師器	高杯	胴部下端~脚部40%	褐色(5YR6/6)	ヘラナデ	ナデ	良	密	4.5	4.1	3.8	
8	25	土師器	器台	器受部20%	褐色(5YR6/6)	ナデ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	良	密	11.2	7.0	1.8	12.6
8	26	須恵器	甕	口縁部片	黒褐色(10YR3/1)	ヨコナデ	ヨコナデ	良	緻密				
9	1	土師器	埴	口縁~底部70%	褐色(7.5YR6/6)	頸部斜位のハケメ、胴部ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ、頸部横位のハケメ	良	密	10.9	2.8	5.2	
9	2	土師器	埴	口縁~胴部40%	赤色(10R4/8)	口縁部縦位のヘラミガキ、体部ヘラナデ、横位のヘラミガキ、赤彩	口縁部ヘラナデ、横~斜位のヘラミガキ、口縁~頸部赤彩	良	密	10.4	4.8	5.4	
9	3	土師器	埴	ほぼ完存	褐色(7.5YR6/6)	ヘラナデ、ヘラミガキ	ヘラナデ、ナデ	良	密	7.2	1.8	4.2	
9	4	土師器	小型甕	胴部上半~底部70%	明赤褐色(5YR5/6)	斜位のハケメ重ねる、ヘラナデ	ヘラナデ、ナデ	良	密	8.7	5.4	4.6	
9	5	土師器	小型甕	胴部上半~底部60%	明赤褐色(5YR5/6)	ヘラナデ、ハケメ	ヘラナデ、ナデ	良	密	9.4	4.8	4.1	
9	6	土師器	手捏ね土器	ほぼ完存	にぶい赤褐色(5YR4/3)	指頭痕残る	指頭甲痕による作りだし	良	密	2.6	1.4	2.1	
10	1	陶器	瓶	頸部~胴部上半20%	灰オリーブ色(7.5Y6/2)	ヨコナデ、全面施釉	ヨコナデ、一部角棒状の圧痕?あり	良	緻密	9.2	22.3	4.6	
10	2	金属製品	和鏡	完存	緑青色	鏡背面: 紐孔痕。直角式縁。裏面、内区は縦溝・横・尾長鏡を配す、菊花蝶鳥文鏡。重量216.1g	鏡面: 炭化した莖状の植物繊維が付着する			口径10.4		縁厚0.6	
一括	1	縄文土器	深鉢	胴部片	明赤褐色(2.5YR5/6)	R1の縄文施し、沈線内を磨り消す。中期加草利E式	ナデ	良	やや粗				
一括	2	弥生土器	鉢	口縁部片	褐色(7.5YR6/6)	口縁部にRの斜線文施す、焼成後穿孔1ヶ所あり	ヘラナデ	やや不良	密				

山倉堂谷古墳群

山倉堂谷貝塚
猿子谷古墳群
山倉天王貝塚

今回調査地点



蟻木城跡

新殿古墳群

叶台遺跡

小鳥向遺跡

武士古墳群

写真図版

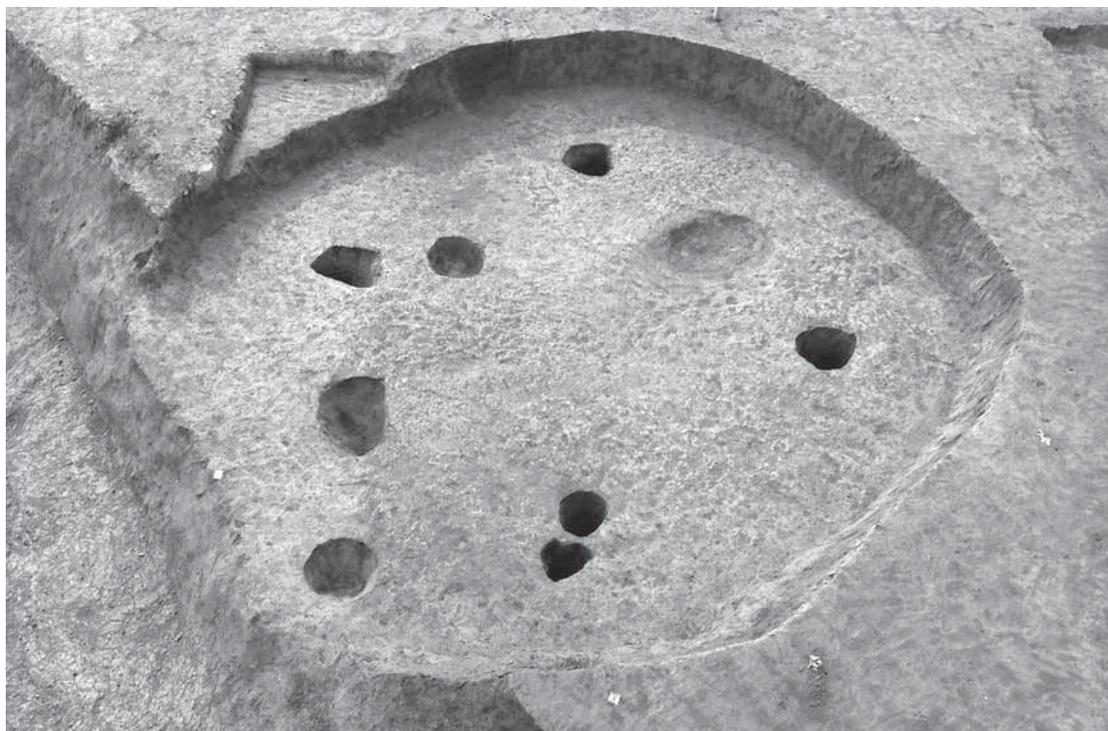
1号跡(東から)



1号跡(南から)



2号跡(東から)





4号跡(南から)



5号・9号跡(北から)



6号跡(南から)



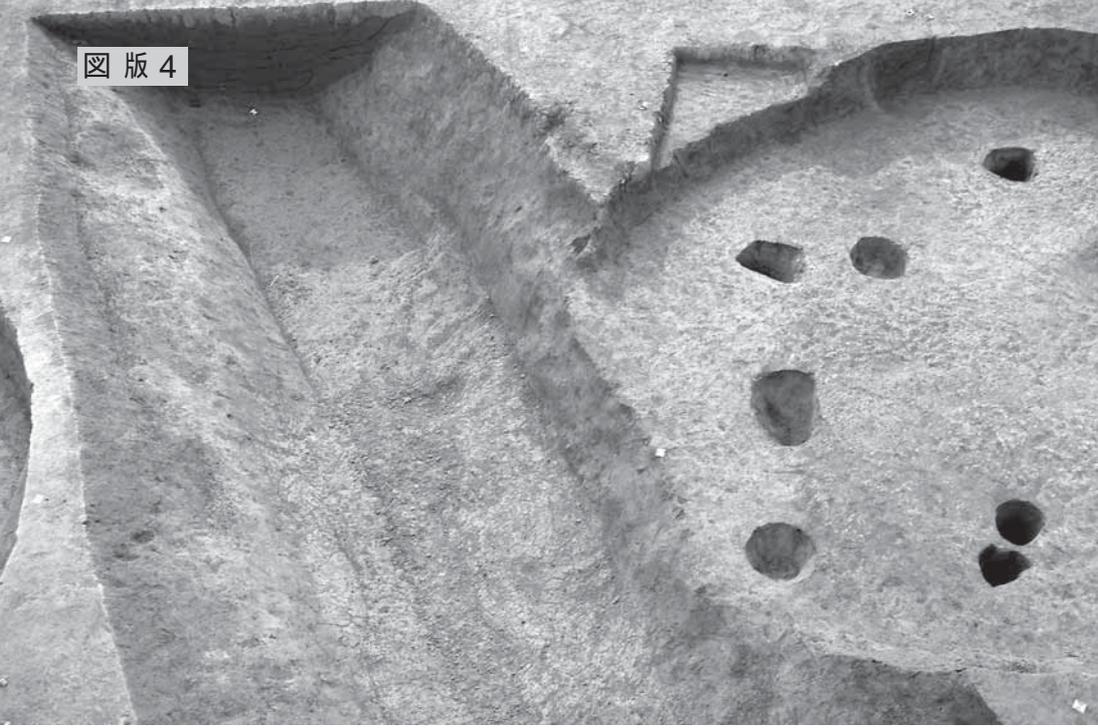
6号跡(南から)



調査風景(北から)



7号跡・北側周溝
(東から)



7号跡・北側周溝
(東から)



7号跡・南側周溝
(東から)



7号跡・南側周溝
(北から)



7号跡・南側周溝
(東から)



7号跡(東から)



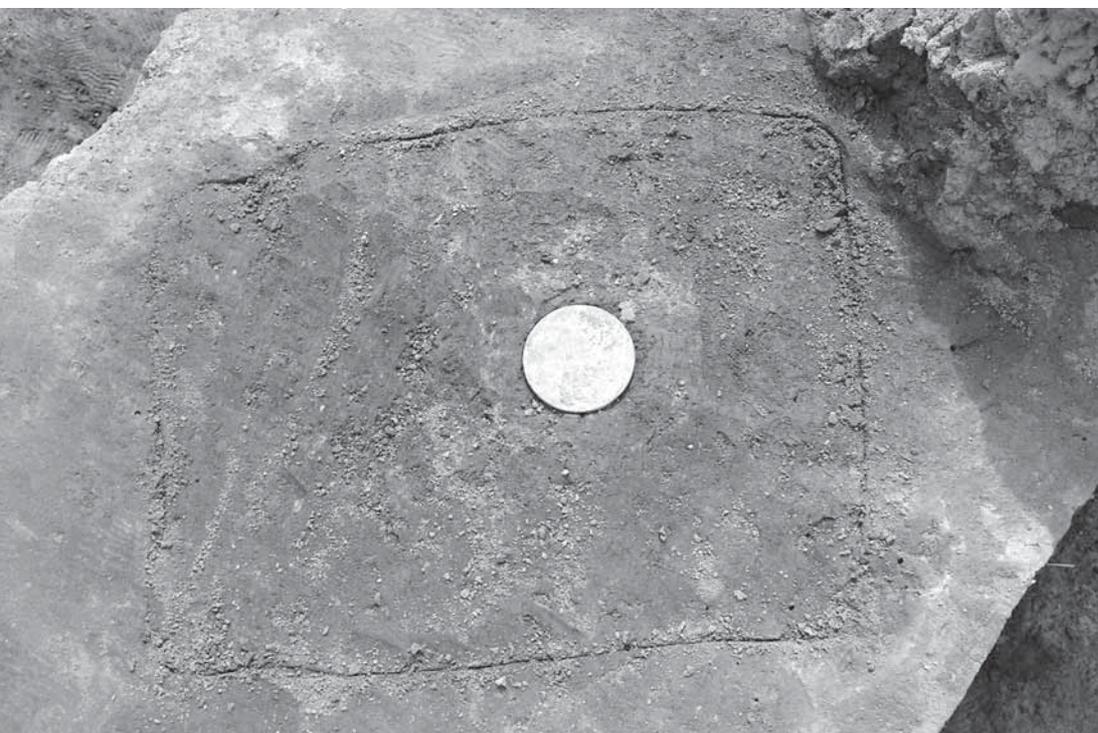
8号跡(南から)



8号跡(南から)



遺構遠景(南から)



10号跡・和鏡出土状況
(東から)



1号迹 - 1



1号迹 - 13



1号迹 - 14



2号迹 - 12



2号迹 - 13



4号迹 - 6



5号迹 - 9



6号迹 - 14



6号迹 - 17



7号迹 - 8



7号迹 - 9



7号迹 - 11



7号迹 - 12



7号迹 - 13



7号迹 - 14



7号迹 - 17



7号迹 - 18



7号迹 - 19



7号迹 - 20



7号迹 - 21



7号迹 - 24



7号迹 - 26



8号迹 - 9



8号迹 - 10



8号迹 - 11



8号迹 - 12



8号迹 - 13



8号迹 - 14



9号迹 - 1



9号迹 - 3



9号迹 - 4



9号迹 - 5



9号迹 - 6



1号迹-2



1号迹-3



1号迹-4



1号迹-5



1号迹-6



1号迹-7



1号迹-8



1号迹-9



1号迹-10



1号迹-11



1号迹-12



1号迹-15



1号迹-16



2号迹-1



2号迹-2



2号迹-3



2号迹-4



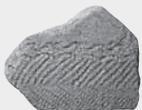
2号迹-5



2号迹-6



2号迹-7



2号迹-8



2号迹-9



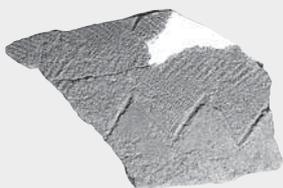
2号迹-10



2号迹-11



2号迹-14



3号迹-1



4号迹-1



4号迹-2



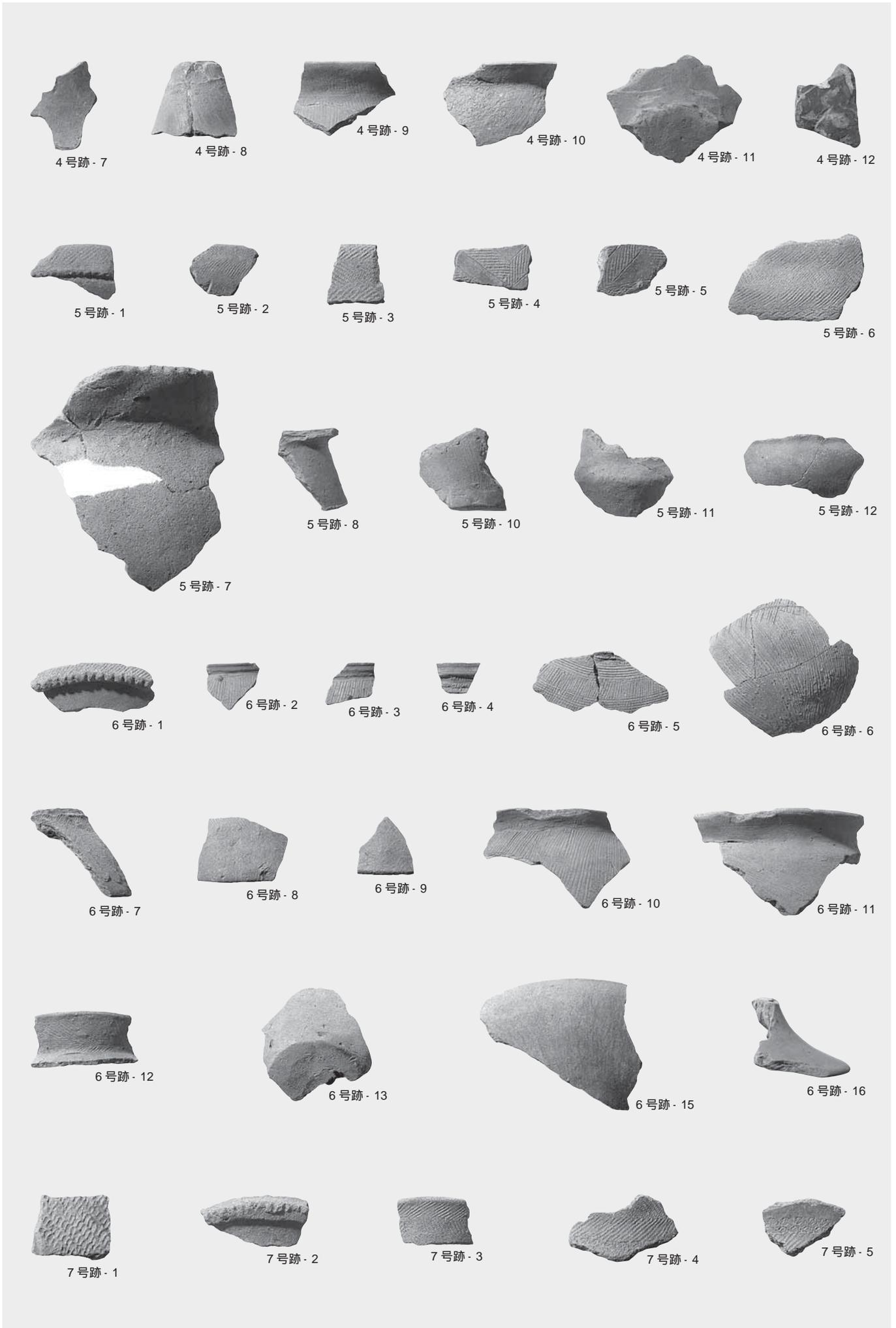
4号迹-3



4号迹-4



4号迹-5





7号迹-6



7号迹-7



7号迹-10



7号迹-23



7号迹-15



7号迹-16



7号迹-25



7号迹-22



7号迹-27



7号迹-28



7号迹-29



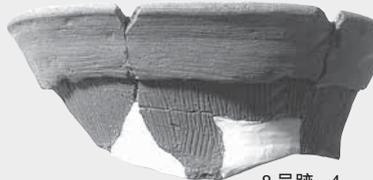
8号迹-1



8号迹-2



8号迹-3



8号迹-4



8号迹-5



8号迹-6



8号迹-7



8号迹-8



8号迹-15



8号迹-16



8号迹-17



8号迹-18



8号迹-19



8号迹-20



8号迹-21



8号迹-22



8号迹-23



8号迹-24



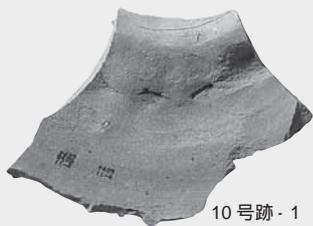
8号迹-25



8号迹-26



9号迹-2



10号迹·1



一括·1



一括·2



10号迹·2

報告書抄録

ふりがな	いちはらしあまいせきぐん（さんにゅうどうちく）							
書名	市原市海士遺跡群（三入道地区）							
副書名								
巻次								
シリーズ名	市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書							
シリーズ番号	第6集							
編著者名	小川浩一							
編集機関	市原市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地 TEL 0436 (41) 9000							
発行年月日	2008年3月19日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
あまいせきぐん 海士遺跡群 （三入道地区）	いちはらしふくまやあざさんにゅうどう 市原市福増字三入道 757-1・758-1の一部	12219	セ409	35度 28分 25秒	140度 8分 3秒	20060724～ 20060828	457	店舗建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
海士遺跡群 （三入道地区）	古墳 集落跡	弥生 古墳 中世	古墳2基 竪穴住居跡6軒 土坑墓2基	縄文土器 弥生土器 土師器 中世陶器 和鏡		段丘面上に、前期古墳及び集落が展開していることがわかった。		
要約	<p>海士遺跡群（三入道地区）は、市内を南北に縦貫する養老川右岸を西に望む標高28m前後の段丘面上に位置する。調査の結果、弥生時代後期～古墳時代前期までの竪穴住居跡や、古墳時代前期の古墳及び中世の土坑墓を検出した。古墳は、径20m前後の方墳と円墳を1基ずつ検出している。周溝内から多量の土器が出土しており、畿内及び東海地方の影響を受けたと考えられる壺・甕が含まれている。また、中世室町期においては和鏡を出土した土坑墓が検出され、当遺跡は蟻木城の東外縁付近に位置することから、その関係が注目される。これまであまり調査事例のなかった、三和地区における養老川の段丘面に存在する本遺跡の古墳及び出土遺物は、畿内及び東海地方とのつながりや市原地域の古墳との関わりを考えるうえで興味深いものと言えるだろう。</p>							

市原市埋蔵文化財調査センター調査報告書第6集
市原市海士遺跡群（三入道地区）

平成20年3月17日 印刷

平成20年3月19日 発行

編集 市原市埋蔵文化財調査センター

発行 有限会社まるぶん

市原市教育委員会

（市原市埋蔵文化財調査センター）

〒290-0011 千葉県市原市能満1489番地

TEL 0436-41-9000

印刷 三陽工業株式会社

〒290-0056 千葉県市原市五井5510-1

TEL 0436-22-4348